

イギリスの教育(9)

カレッジの歴史

シュローズベリーの聖メアリ・カレッジ

池田良三

目次

まえがき	2
1 カレッジの創立	3
2 シュローズベリーの町	5
3 シュローズベリーの聖メアリ・カレッジ	6
4 シュローズベリーのカレッジ	7
1 聖メアリ僧会組織教会兼教区教会 聖メアリ教会内に設けられた服地商組合信徒団	
2 聖チャド僧会組織教会兼教区教会 (1) 聖チャド教会内に設けられた絹織物商組合信徒団 (2) 同じく仕立屋組合信徒団 (3) 同じく織布工組合信徒団 (4) 同じく製靴工組合信徒団	
5 信徒団から同業組合へ	9
6 マンチェスター・グラマー・スクールの創立	11
7 シュローズベリー・グラマー・スクールの創立	13
1 学校創立の請願書	
2 学校の創立許可	
3 第一代校長トーマス・アシュトン	
4 創立時代の学校生活	
5 教育法の改訂(1798年)	
6 教育課程の現代化	
7 学校の移転改築(1882年)	
8 現況	
8 付録	25
1 エドワード六世の勅許状(1552年)	
2 アシュトン氏の規則(1578年)	
3 町役人の規則(1571年)	
注	32
あとがき	34
図表	
第1表 マンチェスター・グラマー・スクールの学校財政	
第2表 校長の週授業計画表	

まえがき

イギリスの教育制度の中で、カレッジの占める地位は非常に大きい。これらのカレッジはいつ頃、どんな姿で創立されたか、どのように経営されたのであろうか。そこでカレッジという言葉、オックスフォード辞典についてみると、カレッジの項の4に、「学問研究の目的で大学の中において法人化された学徒の団体」とし、この意味で使用された最初の文例として、ウィンチェスター僧正ウィリアムがオックスフォードに創立したニュー・カレッジのために、リチャード2世が1379年発行した、勅許状の1部が引用されている。

創立者ウィリアムは、エドワード3世の書記に任命されて後は、とんとんと出世し、1366年42才で故郷ウィンチェスター僧正に任命された。大聖職者がその財産を慈善事業に投ずることは当時慣例となっていた。早い頃は修道院の設立がさかんであったが、13世紀後半からは牧師養成のための、僧会組織教会 Collegiate Church の建設がはじめられていた。ウィリアムは僧正として故郷に錦を飾った頃に、既にカレッジ創立の決心をしていたと思われる。彼は1369年オックスフォードに土地を購入するため、バッキンガムのジョン外3人を代理人として雇い入れている。相談相手にはマートン・カレッジの教授たちが選ばれていた。

当時オックスフォードには既にユニヴァシティ・カレッジ外6カレッジが創立されていたが、カレッジの財産は少く、管理体制も充分でなかったため、貧乏な学生たちは食うことに困っていた。そこでウィリアムは彼の莫大な私財を投ずる決心をしたのである。1378年にはカレッジ建設のための法王教書が発行され、翌年にはリチャード2世の、死手譲渡法死手譲渡法（これは1279年の制定法で、不動産を宗教団体又は慈善団体に譲渡した場合、この財産は永久に他に譲渡することを禁止する法律である、その理由については、小著「イギリスの学校教育」帝国地方行政学会発行を参照されたい）の免除許可をもらった（王の特別な許可で財産所分が自由となる）。同年創立を許可する勅許状が発行され、管理委員会が法人化された。開校されたのは1386年のことであった。

このカレッジは1名の学寮長と10名の評議員で構成する、管理委員会が管理に当たっている。この下に全国から集った貧乏な奨学生70名が生活している。ウィリアムの主な目的は牧師養成である（当時ヨーロッパにペストが流行し、人口が激減した。従って牧師も不足していた）。彼はこれらの学徒が困らないように、彼が永い間かかって求めた広大な領地、聖職禄、牧師領をこの法人団体に寄付した。この寄付財産からの収入は、当時年600ポンドに達し、この金額は既好の6カレッジの全収入総額以上であったという。（以上はA・F・リーチの「ウィンチェスター・カレッジ沿革史、発行1899年による）。

さて、イギリスの中世教育史を調べたA・F・リーチは、「宗教改革期1546—1548におけるイギリスの諸学校」の中で、学校をその創立の時代順に、聖堂付属学校、初期カレッジ付属学校、修道院付属学校、後期カレッジ付属学校、救護院付属学校、同業組合立学校、礼拝堂付属学校、独立学校の8種をあげている。上に述べたニュー・カレッジはこの中の後期カレッジに属する、典型的なカレッジである。初期カレッジとして創立された多くのカレッジは、宗教改革時代修道院の解散財産没収に引き続き、ヘンリー8世の1546年から、エドワード6世の1548年にわたる数年間に、カレッジの解散財産没収が嚴重に実施され、廃校となったカレッジは39校にも達する、と述べている。これらの廃校となったカレッジはいつ頃創立され、どのように経営されていたのか。その中で再建された学校はどんな姿で再建されたのか。

この度は北方の要地、サロップのシュローズベリーを中心として、中世時代存在していた聖メアリ・カレッジ、及び聖チャド・カレッジが、どのように経営されていたか、カレッジの組織と維持財産について、及び付設された福祉事業等について述べることにした。両カレッジは解散され財産没収後自然廃校となったが、シュローズベリー市及び市民の協力で、シュローズベリー・グラマー・スクール、正式な校名は「エドワード6世の無月謝学校」が、再建された次第について述べることにする。なお付録として、この学校に与えられた勅許状、第一代アシェトン校長作成の学校規則、及び学校の管理に直接当たった「町役人の規則」を訳出して参考に供することとした。

1 カレッジの創立

カンタベリーは聖堂に聖堂付属学校が設立（598年）されて以来、次々に新僧正が任命され、ロンドンのセント・ポールズ聖堂付属学校（604年）、ロチェスター聖堂付属学校（604年）等が統々創立された¹⁾。

次に設立されたのは僧会組織教会（略してカレッジとよぶ）の付属学校である。これらのカレッジはその創立も古く、キリスト教の教会としてもその地方で最も重視されていた。その主なものをあげてみる。

ビヴァリーの聖ジョン・カレッジ

チェスターの聖ジョン・バプチスト・カレッジ

クレディトンの聖クロス・カレッジ

リボンの聖ウィルフリッド・カレッジ

シュローズベリーの聖メアリ・カレッジ

シュローズベリーの聖チャド・カレッジ

サウスウェルの聖メアリ・カレッジ

スタッフォードの聖メアリ・カレッジ

タムワースの聖エディス・カレッジ

ウォイックの聖メアリ・カレッジ

ウィンボーンウィンボーンの聖メアリ・カレッジ²⁾

等の11箇所、これらのカレッジのことはドムズデーの記録（ウィリアム1世の命によって1085—6年作成された英国全土にわたる大土地台帳）にも明記されている。その役目も聖堂教会と殆んど同じで、そのうちのあるものは聖堂教会として設置されていた。例えばクレディトンは現に聖堂であったが、エドワードさん梅王（1042—66在位）の時代に、エクゼターに移された。そこでこのカレッジは直接僧正とは関係がなくなり、聖堂とは数えられなくなった。

さて、これらのカレッジはいつ頃、どのような必要に応じて設立されたものであろうか。ウォイックの学校とカレッジの歴史によると、ノルマンディ公ウィリアムのイングランド征服（1066年）以前、ウォイックのオール・セイント教会組織教会に付属する学校があったことは、ヘンリー1世の1123年の宮廷記録、即王は教会に対し、すべての慣習法と試罪法（中古チュートン民族間に行われた裁判法で、火または熱湯に手を入れても害を受けない者は無罪とした）は、エドワード王（1042—66在位）や私の父ウィリアム1世（1066—87在位）、兄ウィリアム2世（1087—1100在位）の時代に実施していた通り、学校も従来通り教会に付属させてよいという記録で、証

明することができる。

マーシア王国（ブリテン島の中部にアングロ・サクソン族がたてた王国、後にウェセックスに併合された）内の町々は、当時大陸からのデーン人の侵襲に悩まされていた。マーシア王国の女王エセルフレッドは、914年ウォイックの町に敵を防ぐための「城壁」を秋の収穫までに建造せよと命令した。この頃既に教会とそれに付属する学校は、この町に好在していたと推定される⁵⁾。従来「自治都市」として発展する町の周囲に築かれた建造物、即城壁に囲まれた自治都市は、最初はデーン人の侵入を防ぐための「とりで」として築かれ、その後数百年の年月をかけて、より完全なるものとなったと思われる。この自治都市について「中世初期のイギリス社会史、1066—1307」を書いたステントンは、

1. 市場をひらく安全な場所
2. 人々が立合人の前で取引の話合いをすすめる場所、この立合人はもし取引する品物の主が後で疑われた場合は、証言をする人物である。
3. 貨幣の铸造ができる場所
4. 防衛の中心地たる場所
5. 戦争の場合は避難所となる場所

と要約している。このように堅固な城壁がめぐらされた場所は、後に王の勅許状によって「自治都市」として認可され、そこには必ず「世俗の僧侶」が経営する「王の無料の礼拝堂」⁶⁾をもって僧会組織教会が設けられ、グラマー・スクールが併設されていた。

僧会組織教会の職員

古い時代このカレッジの長は、Schoolmaster であった。このスクールマスターは教会の長であるから、現在の使用例から「教師」と訳しては誤りである。彼は教会の運営、教会財産の管理運営全般にわたる責任者である。しかしながら、彼の任務の主たるものは、子どもだけでなく希望者全員に、読み書きを教えることであったにちがいない。

さらに後になると、このカレッジの長は Chancellor と呼ばれるようになる。この名称は後の本寺書記長であるが、このチャンセラーと呼ばれるようになると、もう学校では教えていない。教会本来の仕事が多忙になったので、文法を教える仕事は普通スクールマスター（教師）、或は詳しく引用すると「僧会組織教会のグラマー・スクールの教師」と呼ばれる者に、その仕事を譲っている⁶⁾。（僧会組織教会の制度が整備されると、この教会の長の名称は1394年創立のウィンチェスター・カレッジの長は Warden と呼んでいるが、現在は Dean と呼んでいる⁷⁾。本寺長の任務については後で述べる）。

以上述べた職名は、教会制度が整った後の教会の中では、次のような地位を占めている。

僧正管区

僧正は彼が担当する管区民の信教上の責任者で、教化の体制は次のようになっている。教会の制度は、僧正の地位を最高にして、国民の信仰上の責任者として、次の体制をとる。僧正管区—主祭管区—監督代理管区—教区（教区教師、代理教師、教師補がいる）

次に、僧正は僧会の長であり、僧会の長として彼は四名の特別な権威者を任命する。本寺長僧会僧侶全員の中から選ばれ、僧正によって任命されて、僧会の長となる。教会陣内西南の角の僧会僧侶席を占める。次の三名は僧正が任命する。

唱主 彼は儀式の順序及び音楽に責任をもつ、内陣西北の角に席をとる。彼は本寺管内の

「唱歌学校」の監督に当り、そこで教える唱歌教師の資格を与える。

出納長官 彼の席は内陣の東北隅にあり、彼の義務は財政をつかさどり、聖壇が儀式的に適当に整えられているかどうか、その他教会財産の監督に当たっている。

本寺書記長 彼は内陣の東南隅で、僧正の隣の席を占める。僧正の秘書後で、書類の作成、僧正正印の保管に当る。彼は本寺に付属する僧侶のための学校で神学を講じ、又管区内のグラマー・スクールの教師に資格を与え、校長、助教師を任命し、教育全般の監督に当たっている⁸⁾。

2 シュロズベリーの町

シュロズベリーの町は、古くからこの地方の市場の中心で、自治都市として栄え、州の首都でもあり、下院に代議士1名をおくっていた。その位置はウエルズへの出入口に位し、重要な都市である。その広さは凡そ13平方哩である。古い町はセヴァーン河が描く湾局部の南側にある。ロージャー・ド・モントゴメリーが1070年築いた、美しい赤い砂岩の城は、この半島の首根つ子のせまい切立ったみさきの上にかぶさったようになっている。その城の下方に町の家々が密集している。木骨造りの家と、狭い通りがあって、古い城壁の外に公園や石切場(採石場)がある。

この地方は8世紀の終り頃、マーシャ王国に征服され、その1地方に編入された。エドワード兄王(975—8在位)時代、ここに貨幣鑄造所がおかれ、ドムズデー土地台帳(1086年)にはシティ(聖堂のある都市または特別な勅許状による都市をいう)と記されている。シュロズベリーが受けた勅許状は、ウィリアム1世(1066—87在位)時代からチャールズ1世(1625—49在位)までの間に、32件に上っている。現在残っている勅許状で最も古いものは、1189年リチャード1世が市民に年40マーク(26ポンド13シリング4ペンス)で、永代借地権(約定地代を納付して保有する永代借地)⁹⁾が許可されている。しかしそれより早く、ヘンリー2世(1154—89在位)が勅許状を与え、ジョン王(1199—1216在位)は1200年その勅許状を追認したことが知られている。

ヘンリー2世は1227年、シュロズベリーの商人組合に、組合事務所(ここは将来市役所となる)を開くことを許可している。さてこの頃どんな組合が活動していたであろうか。シュロズベリーにはいわゆるシュロズベリー・ショーというお祭りがある。これは商人組合が主体となって、キリストの聖体降臨を祝う宗教行事である。各組合はその組合を示す色でつくったものや、また趣向をこらしてつくったものを持って、町役人や参事会員の後に従い、町から3軒ほどの所にある「泣き十字」(ざんげの涙を捧げて祈る路傍の十字架)まで行進する。そこで彼等の罪を充分嘆き悲しんだ後、全員そろって聖チャド教会に行き、ここで荘厳ミサ(聖歌隊の合唱がある)が行われる。この後の3日間組合はレクレーションの場を提供していた。宗教改革以後は宗教的色彩は薄れたが、行列は毎年行われた。

1591年以後、行列は「王の土地」に行くならわしとなった。そこでは一定の土地が組合別に割りあてられ、生垣をめぐらし、思い思いの「あづまや」が建てられていた。靴屋組合のあづまやが最も大きく、1679年建てられたものである。最近ではヘンリー8世、エリザベス女王等の仮装人物が、車や馬で行列をつくっている。あづまやをもっている組合名は次の通りである。靴屋組合、肉屋組合、馬具屋組合、仕立屋組合、皮皮革商組合、建設業組合、パン屋組合、金属細工商組合¹⁰⁾。

エリザベス女王の1586年、シュロースベリーに法人団体たることを許可する勅許状が交付され、チャールズ1世の1639年の勅許状では、この市自治体の行政組織が、市長1名、市参事会員24名、補佐役48名に変更されている。

セヴァーン河の河口にある商港カーディフから、凡そ250軒さかのぼった所にあるシュロースベリーは、それからさらに上流へ凡そ60軒も船でさかのぼることができる。ウェルズ地方の羊毛や亜麻を、下流のグロスター、ブリストル、カーディフの諸港へ運び、この町は中継地として栄えた。シュロースベリーの町は商業の中心地であると同時に、教育の中心地でもあった¹¹⁾。

3 シュロースベリーの聖メアリ・カレッジ

聖メアリ・カレッジは、イギリス中世教育史研究者A・F・リーチの調査によると、教区教会を兼ね、エドガー王(959—75在位)に創立され、故人の霊を慰めるために祈り、子ども達を教えるために、1名の本寺長と7名の僧会員(以上はカレッジの職員)をおき、さらに1名の牧師をおいていたと記されている¹²⁾。

このカレッジのことが最初に記録に出てくるのは、1080年に書かれたアングロ・ノルマンの歴史家オルデリカス・ヴィタリスの回想記である。彼は5才の頃父にすすめられて、シュロースベリーの学校でシーワード師にラテン語を教わった。シーワード師は修道僧ではなく(当時修道僧がふえ修道院が続々建設されていた)、高貴な姿の僧であったという。又次のような記述もある。私(オルデリカス)はシュロースベリーの学校におくられ、聖ピーター教会で初めて僧侶の仕事についた。シーワード師は5年間私にラテン語を教え、さらに聖書の詩篇や賛美歌その他必要なことを教えてくれた。所が彼の父がいた教会は遂に修道院に切り換えられることとなった。彼の父は結婚している僧侶であり、結婚を否定し修道僧となることを嫌った。そこで彼はオルデリカスを遠いノルマンディ(北フランス)におくった。彼は11才で頭髪をそり、16才で修道僧となった。

シュロースベリーのカレッジは、教会が修道僧に占領され修道院となって後も、そのままの姿で存続した。その証となるものは、1232年10月10日付の文書である。ヘンリー3世(1216—72在位)は、教師ロージャー師をして、シュロースベリーの聖メリア・カレッジで、法王の代表者からの訴訟事件に、王を代表して出廷するよう、指示した文書である。聖メリア教会は聖チャド教会と共に、ドムズデー土地台帳に僧会組織教会として記載されているが、その後も僧会員のいる(修道僧ではない)僧会組織教会として、1547年のカレッジ・礼拝堂法(イギリスの宗教改革に伴い、1536年小修道院法で解散、土地没収が実施され、さらに大修道院の解散、最後に1546年からエドワード6世の1548年にわたって、カレッジ・礼拝堂^{チャムトリー}が解散させられ、教会財産である土地没収が実施された。尚カレッジと礼拝堂の区別は、A・F・リーチによれば、死者の冥福を祈る僧侶が1名(多くとも2名まで)の小規模の教会が礼拝堂で、3名以上となると通常カレッジという、と)¹³⁾の施行される迄存続していた¹⁴⁾。さて、シュロースベリーの聖メアリ・カレッジ及び聖チャド・カレッジは、具体的にはどのような姿で好在していたのであろうか。前に述べたA・F・リーチの調査報告書から、1540年代両カレッジの概要と財産目録について述べることにする。

4 シュロースベリーのカレッジ

1 聖メアリ僧会組織教会兼教区教会

エドガー王（959—975在位）が創建された僧会組織^{コレジエート・チャーチ}教会で、職員としては本寺長1名、僧会員7名である。その外に教区教会の牧師が1名いる。この教会の目的は、この教会内で毎日故人の冥福を祈り、聖歌をうたい、教区民の信仰上の監督に当ることである。

本寺長と7名の僧会員の報酬は、教会の維持財産収入から支払い、その総額は年間22ポンド7シリング4ペンス。教区牧師の報酬は年6ポンド6シリング8ペンス。ぶどう酒とろうそく代40シリング、地代集金人報酬年4シリング、10分の1税26シリング2ペンス、合計32ポンド4シリング2ペンス。教区の信仰の監督を要する人口は凡そ1500戸である。本寺長の家具付住宅は年8シリングと評価されている。

聖メアリ教会内の服地商組合^{フワターニティ}信仰団

このカレッジ内には服地商組合信徒団が経営するトリニティ祭壇（小さい礼拝所である）が設けられている。組合が寄付した維持財産は、後にエドワード4世（1461—83在位）によって追認された。その目的は、さきにあげた祭壇で祈る1名の僧侶を維持すること、次に貧乏な老人15名を救済すること、この2つの目的をもって設定されたものである。財産収入から支払われる金額は、1名の僧侶の報酬は年4ポンド、貧乏な老人15名への救済金は、その世話役には1週につき2ペンスと薪を年2荷、他の14名には1週につき1ペンスと薪を年1荷づつ支給する。以上で53シリング4ペンス、薪は1荷8ペンスで計10シリング8ペンスとなる。地代集金人の報酬は年10シリング2ペンス。その他残金は必要に応じて使用できる、この分は8ポンド12ペンス。総収入合計15ポンド15シリング2ペンスとなる。

（服地商組合^{ドレーパーズ・カンパニー フワターニティ}の信徒団とは何か、組合と信徒団との関係はどんなものか、これについては次項で述べることとする。

次に、ここに出てくる服地商組合信徒団の祭壇のことを、A、F、リーチの「宗教改革期のイギリスの諸学校」では、シュロースベリーの服地商組合のグラマー・スクールと書いている¹⁵⁾。これはどのように解すべきであろうか。この寄付財産で雇われている僧侶に与えられた任務は2つある。第1は、本文で述べているように、服地商組合員の物故者の霊を慰めるために、朝晩燈明をあげて祈ることである。第2の任務は、月曜日から土曜日までの週日には、その週辺の子どもたちを無料で教えることである。勿論教える程度は、僧侶の学力によることであるし、又協力する僧侶のにもよることであるが、初等程度の唱歌学校、或は書写学校、さらに、聖職位を求め、役人や商工業者となるためのグラマー・スクールが経営された。これらの学校は小規模学校で普通礼拝堂付属学校といわれ、月謝は無料であった。このように小さい教会と小さい学校が一緒に経営されていたのである。

さて、このような学校にその子をおくっている親は、その感謝の意を表すためにお礼をしていた。その一つが Cock-penny（コックはにわとり、ペニーはイギリスの銅貨、今は死語）である。オックスフォード辞典によると「昔イギリス北部の学校で普通聖灰水曜日のさんげ日頃（2月上旬）行われた教師への謝礼」とある。その最も古い文例として、1524年、マンチェスター・グラマー・スクールの学校規則にある「教師はコック・ペニーを徴収することなく教

えねばならぬ」をあげている。ランカシアのウォリントン・スクールの学校規則では、校長に生徒から4ペニー徴収してよい、と許している。これをマンチェスター・グラマー・スクールは禁止したのである。この学校ももとはカレッジから発展した学校である。徴収しないで済んだ理由も含めて、別項で改めて述べることにする)¹⁶⁾。

2 聖チャド僧会組織教会兼教区教会

チェスター僧正ロージャーが、聖チャド僧会組織教会兼教区教会で、日々神に祈り、教区内人民の信仰の監督のため、本寺長1名、僧会員10名、その外に教区牧師2名の、この教会を創立した。教会財産収入から支払われる金額は、10分の1税年二九シリング5ペンス4分の1、本寺長と10名の僧会員の報酬年21ポンド15シリング2ペンス4分の3、牧師2名のうち1名は6ポンド13シリング4ペンス、1名は4ポンド6シリング8ペンス、合計11ポンド。ぶどう酒代57シリング、ろうそく代6シリング8ペンス、教会書記の報酬3シリング4ペンス、牧師補へ2シリング、施物分配のための吏員へ2シリング、臨時僧侶への報酬6シリング8ペンス、合計77シリング8ペンス。地代集金人報酬4シリング。合計38ポンド6シリング4ペンス。この教区内の戸数は1,600戸である。

(1) 聖チャド教会内に設けられた絹織物商組合信徒団

ジョン・ペケットが聖チャド・カレッジ内にある聖ミカエル祭壇で祈る1名の僧侶をおき、貧乏な老人13名を救済するために創立したものである。僧侶の報酬は年4ポンド、13名の救済は、1名につき週1ペンス、合計56シリング4ペンス。葬式には2シリング2ペンス支出し、地代集金人報酬7シリング10ペンス、その他の費用11シリング2ペンス、合計7ポンド17シリング6ペンス。

(2) 同じく仕立屋組合信徒団

ロージャー・ワイクとウィリアム・ウォルフォードが、聖チャド・カレッジ内にある聖バプテスタ祭壇で祈る僧侶1名を雇うために創立したものである。財産収入の中から支払う金額は、僧侶への報酬年4ポンド、葬式料2シリング、地代集金人報酬3シリング4ペンス、その他の費用3シリング6ペンス、合計4ポンド8シリング10ペンス。

(3) 同じく織布工組合信徒団

前と同様の目的でジョン・ペガットが創立した祭壇。僧侶1名の報酬年47シリング1ペンス、地代集金人報酬4シリング11ペンス、財産収入合計52シリング。

(4) 同じく製靴工組合信徒団

ロバート・エンデスローによって創立、聖カザリン祭壇で祈る僧侶1名、その報酬年26シリング8ペンス、地代集金人報酬19シリング、合計45シリング8ペンス¹⁷⁾。

以上はイギリスの宗教改革期、ヘンリー8世及びエドワード6世のカレッジ・礼拝堂法(1545-1548年)施行により没収された、シュリーズベリーの聖メアリ・カレッジ及び聖チャド・カレッジと、この教会内に設けられていた各同業組合の寄付財産で維持されていた祭壇に関する記録である。これによって各カレッジの組織、事業、教会財産及びその収入と支出の概要を知ること

ができる。各カレッジは教区教会を兼ねていたこと、従って大人の信者に対する宗教活動、冠婚葬祭の行事、子どもに読み書きを教えると同時に、将来立派な信者に養成するための宗教活動、不幸な老人と孤児等の救済に関する福祉事業等、その活動は広汎にわたっていた。

教育活動についていえば、子どもの要求に従って各種の学校が開設されていた。英語の読み書きを要求する者のためには唱歌学校があった。商工業者たらんと志し、広く事業を営みたい者、役人又は法律家を志す者、或は聖職者たらんとする者のためには、ラテン語を教えるグラマー・スクールが設けられていた。聖メアリ・カレッジ内に設けられた服地商組合創立の祭壇とその僧侶の教育活動が、単独の同業組合立学校の一つに（礼拝堂付属学校の殆んどは教師1名の小規模学校であったことは前に述べた）数えられていたのはその証である（さらに聖職者を志す者のために神学部があったであろう。このうち高級の聖職者を志す者のためには、オックスフォード又はケンブリッジの神学部が設けられていた）。

以上のことは教会の財産面からも考察できる。A・F・リーチの研究によると、カレッジ・礼拝堂法によって解散させられ、自然廃校となった学校のうち、グラマー・スクールは全国で259校であった。それらの学校が属する教会の財産収入の合計は、1,677ポンド5シリング2分の1ペンスであった（王命によって特に法の適用を除外された、ウィンチェスター・カレッジとイーpton・カレッジの年収合計は1,951ポンド11シリング3ペンス2分の1で、これは除外されている）¹⁹⁾。この数字から259校の年収平均は6ポンド9シリング余である。これに比較して聖メリア・カレッジは年収47ポンド19シリング余、聖チャド・カレッジは55ポンド10シリング余、祭壇を独立の礼拝堂として、2カレッジ5祭壇の7で割ってみると、平均14ポンド15シリング余となって、全国平均の2倍以上となっている。

これらの教会財産は政府から補助されたものではない。みなその地方の住民の生産活動による利潤の集積の賜である。教会財産が多いことは、その地方の住民の生産活動が他に比較してより活発であることを示している。それ故これらのカレッジ・祭壇が解散させられ、その財産がそっくり没収されては、学校は自然廃校とならざるを得ないのは当然のことである。

5 フランコニイ ゴールド 信徒団から同業組合へ

イギリスのギルドの歴史は古く、アルフレッド王（871—901在位）の年代記の中にそれらしい記述があると、「ロンドン・シティのギルド」の著者のアーネスト・プーレーは述べている¹⁹⁾。ギルドという言葉自体アングロサクソン語だという。11世紀から12世紀頃、都市は他からの侵入者と戦って、その存在を主張しながら、その勢力を少しづつ伸ばした。最も早くその名称がでてくるfris・ギルド (Frith-gild) とは、湾の入江に面して生活している人々の組合で、ここでは家族を単位として構成されている。その目的は入江に侵入してくる敵からその村落を護ることであった。

ギルドは最初から商業的要素のみから結成されたのではない。しかし同じ業種の者が近くに集まることは自然の勢である（ロンドンでは金物細工職人たちの住んでいる地区をスミス・フィールドと呼び、盾製造職人たちの住んでいる地区をバックラーズベリーと呼んだ）²⁰⁾ 最初の頃彼等は集合の場所を持っていなかったの、近くの教会や修道院、或は救護院の一室を借り、そこに祭ってある聖人を守護神としていた。中世時代の人々は実に厳しい宗教心をもっていた。特に死者に対しては特別な態度で接し、その霊を慰めるために灯明をあげ、礼拝を絶やさなかった。ギル

ドでも同様に会員であった者の霊を慰めるために、資金を集めて教会に納め、日夜灯明をあげ、お祈りを絶やさないうよう、僧侶に依頼していた。死者があれば手厚く葬った。組合の資金が多くなると、彼等は葬式用の金糸銀糸で刺しゅうをした豪華な棺衣を用意した。現在残っている棺衣は芸術品としても高く評価されている。

こうしてギルドが特定の教会に依頼して、死者のために礼拝を依頼し、そのために必要なろうそくやお供え、僧侶への謝礼として一定の金銭を支払う習慣ができ上った。その代りギルド側は、強大な背景をもつ教会の保護を受け、いつか襲ってくるかも知れない危険を、予め避けることができた。彼等は又ギルド独特の制服や色をきめていた。制服は着飾るためではなく、人間社会の一つの階級を示すためである。当時バロン（英国貴族、大地主）や高官たちは、その徒者に制服をつけさせていた。教会においても同様にその階級に応じて、づきんつきのガウンを着用していた。ギルドでもこれにならったのである。これは14世紀の中頃のことである。こうして彼等は宗教を中心として、信仰心の篤い信徒団（Fraternity）を結成した。信徒団と訳してみたが、その実際の姿は明確にはとらえにくい。簡単にいえば、同じ職業についている者たちが、宗教を中心に結びついている友愛団体なのである。

ギルド

信徒団として出発したギルドは、その後名称の頭に守護神としての聖人の名を冠したままの姿で、次第に同業組合、職人組合に発達していく。信徒団の長はアルダーマンと呼ばれ、補佐役に四名のウォーゾン（事務長）がいた。教会のミサや葬式に参加するよう呼びかけるのは事務長の役目で、それが終るとサクソンのならわしに従って宴会となる。宴会はギルド生活の第二の中心的行事で、会員相互の友愛の情を育ててくれる。食事は会員持参のもので簡単にすませる。正さんグレイズを用意するのはギルドにとって特別の日、即ギルドの聖人の日、ギルド役員の改選の日とし、この日会員は全員制服を身につけ、厳粛な行進をした後に教会の行事に参加した。集会や食事に必要な場所は、個人の家か教会の建物を使用した。後には組合事務所を建てた（同業組合が連合して商人組合を結成し、その組合事務所ギルド・ハウスがそのまま現在は市役所、町役場となっている）。ギルドの会員がふえ、富と勢力を増すにつれ、次に彼等の活動を最もよい方向に組織する。組織するとは、一方では組合内部で統制をとって生産権と販売権を独占し、外部からの競争者を排除することである。ロンドンの商人たちがハンザ商人たちを駆逐したのは最もよい例の一つである。

さて、ギルドに勅許状が発行されたのは、いつ頃のことか。アシュレーの「イギリス経済史序論」によると、織工組合ウイヴナーズと縮充組合フーラーズ（毛織物の織り上ったばかりのものを、水のたっぷり入った桶にひたし、両足で踏みつけて織り目をつめさせる仕事だけを受持つ組合であろう）のものが最初であるという。国庫年報（王室の出納記録簿で、ヘンリー1世の1131年から1834年まで記録されている）によると、織工組合は既にヘンリー1世（1100—35在位）時代の1130年、ロンドン、リンカーン、オックスフォードにあって、組合の権威を認めてもらった代償として、一定の金額を王の金庫に納めていたという。この勅許状はヘンリー2世（1152—89在位）からも追認され、年マーク金貨二枚（26シリング8ペンス相当）納めることになった。組合の地位もそれだけ強固なものとなった。この後、1・2世紀の間混沌の時代が続き、エドワード2世（1307—27在位）、エドワード三世（1327—77在位）時代になると、家庭工業振興策がとられ、ギルドへの勅許状も次々に発行されることとなった。かくて、1500年までに25のギルドが法人団体として

の特長を備えることとなった²¹⁾。宗教改革期に同業組合立学校がどれ位あったか、それについては既に「イギリスの教育(6)」において34校であったと書いたことがある。その中ではシェローズベリーに、服地商組合経営の1校のみがあげられている。これはグラマースクールであるから、他は初等の唱歌学校、或は書写学校であったので、数えられなかったものと思われる²²⁾。1940年現在のギルド数は、薬剤師組合以下羊毛商人組合に至る、78組合となっている²³⁾。

6 マンチェスターグラマースクールの創設

ヒュー・オルダムの寄贈

11世紀の頃、マンチェスターの政治の中心は、今のチェザム救護院の敷地にあった、領主館にあった。領主グレル郷はこの広い領主館内に、領主裁判所（領地内の住民の裁判）、市場、水車（製粉工場としての水車と毛織物をちぢめる縮充工場としての水車がある）、共同パン焼場を運営していた。この施設を利用する市民は相当の使用料を払っていた。

14世紀から16世紀にかけて、以上の使用料はいろんな方面に使用されていた。領主館は教会の僧侶の住宅となり、市場と裁判所は織物業者サー・モズレーが買いとった。幾つかの水車はヒュー・オルダム（1505—1519、エクゼター僧正）に買いとられ、その収入はグラマー・スクールの維持費として寄贈されていた。この水車はどんな経済的価値があったのか。1282年の調査記録によると、製粉工場の上下二つの水車の年間収入は17ポンド6シリング8ペンスで、縮充用の水車は凡そ26ポンド18シリングの利益をあげていた。1301年領主からマンチェスター市民に与えた特許状によると、市民はパンを焼き、ビールを醸造したいときは、必ず穀物をこの水車でひいてもらい（水車を新たにつくることは領主の許可を受けねばならない）、ひき賃を係員に支払わねばならなかった。この水車が全部マンチェスター・スクールの管理委員会に譲渡されたのである。第12代領主は教区の主任牧師も兼ねていた。彼は古くなった領主館を全部取り払い、その跡地に僧会組織教会（略してカレッジ）を創立した。四方を建物で囲まれた中庭をはさんで、カレッジの長の宿泊所、8名の僧会員の宿泊所、その他の集会所、厨房、寮舎があった。唱歌隊員は6名いた。学校はこの教会の隣に建てられた。

リチャードベズウィックの寄贈

多くの学校が僧会組織教会の中から発生している。15世紀、教会には主な祭壇の外に、いろいろな人々の寄贈にかかる祭壇（礼拝所又は礼拝堂）をもっていた。教会の両側にある側廊は、僧侶たちが毎日祈りをささげる祭壇（礼拝堂）として、あつらえむきの場所を提供していた。これらの祭壇には全部寄贈財産がついていて、寄付財産収入で雇われている僧侶は、寄付者とその妻・子の冥福のために祈りをささげていた。そのような祈りは、死者が生前犯した罪のため煉獄でさいなまれている死者の霊を、放出することができると信ぜられていた。

羊毛商リチャード・ベズウィックは1508年、このような礼拝堂を教会に寄付していた。彼は次のように指示している。礼拝堂に奉仕する僧侶は2名とし、その中の1名は学校で教え、生徒から月謝を徴収してはならない、カレッジではラテン語で充分歌える聖歌隊を養成せよ、聖歌隊の聖職者席2つは校長と助教師のものとせよ、と。この礼拝堂附属学校もマンチェスター・グラマー・スクールの前身の1つであった。

ヒュー・オルダムは後にエクゼスター僧正となり、その妹はベックスウィックの養女となっ

た。ヒュー・オルダムこそマンチェスター・スクールの創立者だが、彼については何もわかっていない。彼はオックスフォードのコルプス・クリスティ（1516年創立）とブレイズノーズ・カレッジ（1509年創立）の二校の創立にも貢献している。その当時成功者がその郷里に学校を創立することは伝聞となっていた。

マンチェスター・グラマー・スクールの建設事業は、1515年8月に開始された。完成まで10年の年月を要した。学校の管理運営はマンチェスター・カレッジの学寮長と、12名のマンチェスター教区公共不動産管理委員の協議に一任され、教師の任命に当ってはコープス・クリスティ学寮長が推せんすること、校長任命の場合はマンチェスター・カレッジ学寮長と相談することとした。先に述べたリチャード・ベックスイックの礼拝堂付附属学校はそっくりこの新しい学校に吸収されることとなった。こうしてマンチェスター・グラマー・スクールが発祥した²⁴⁾。

創立450年記念の沿革史 (J.A.Graham: The Manchester Grammar School 1515—1965, 1965) から現況を紹介してみる。現在は学校の経営上の分類によると、通学制の直接補助学校で、生徒数1,421名(1964年)、内65% (約900名)は「公費奨学生」である。学校はパブリック・スクール協会の一員である。直接補助学校とは、学校財産収入の少い私立中等学校がその座席の25%を公費奨学生に提供する約束のもとで、国庫補助を受ける学校のことである。約180校ある。公費奨学生とは公立小学校の優秀な卒業生を地方教育当局が学費を公費で負担して、私立中等学校に通学させる制度で、これは大学まで延長される。1944年教育法で採用された制度である。マンチェスター・グラマー・スクールはランカシア周辺の八州の地方教育当局と契約している。

第1表 マンチェスター、グラマー、スクールの学校財政

	1931年	1964年
学校財産収入	4,000ポンド (11.4%)	650ポンド (0.2%)
国庫補助金	10,000 (28.6%)	122,000 (51.3%)
月謝収入		
父母負担	17,000 (48.6%)	30,000 (12.6%)
公費奨学金	4,000 (11.4%)	85,000 (35.7%)
生徒数	1,419名	1,421名

注 J. A. Graham: The Manchester Grammar School, 1965, P. 83

生徒のうち最上級の6年級に在学する者は凡そ550名で、彼等は中等学校修了資格試験 (G・C・E) の上級試験の、三教科通過を目標に3年間勉強している。この学校からオックスフォードとケンブリッジの奨学生となった者は、1957—61の間で140名に達し、イギリス第一位である。しかしもっと多く赤煉瓦大学 (新設の大学) に進んでいる²⁵⁾。学問を志す生徒たちは直接補助学校に殺到し、その成績は以上の委くである。国庫補助と公費奨学金の実態はどうか、マンチェスター・グラマー・スクールの学校財政の概数は第1表の通りである²⁶⁾。この統計によると公費補助は87%に達している。父母負担と学校財産収入は12.8%の少額である。それでも私立中等学校であるから学校独自の経営がすすめられ、外部からは女王の視学官といえども、校長の許可なしには校門内に1歩も入ることは許されない。次に学校財産収入が極端に少額となっているが、それはどんな理由からか。この時代は中等学校の教育課程の大転換期であった。6年級の生徒には特定の希望教科を専攻させたので、大幅の増改築が必要となった。その費用凡そ25万ポンドは学校財産の売却によった。校舎建築に地方教育当局から公費補助 (最高75%まで) を受ける

ことはできる。しかしそうなると「補助学校」の部に入ることになり、管理委員の3分の1は地方教育当局の指名となり、外部からの干渉が多くなる。そこでどこまでも私立中等学校の地位にとどめ、独自の、充実した経営を続けたい、直接補助学校として経営するに必要な国庫補助は、将来とも確実にもらえる、この確信に基く処置だと考えられる。

7 シュローズベリー・グラマースクールの創立

1 学校創立の請願書

ヘンリー8世とエドワード6世の「カレッジ・礼拝堂法」(1546—1548年施行)によって、一挙に聖メアリ・カレッジと聖チャド・カレッジの両学校を失ったシュローズベリーの『市民』とその周辺の人々は、直ちにその子弟の教育に困ってしまった。彼等は学校の再建を望んだ。1548年、シュローズベリーの町に、無月謝学校の創立を許可してほしいという請願書が、市の裁判官レジナルド・コルベートの手^{ロード・チーフ・セグ}で大法官(英国最高の官職、上院議長、^{LSJ}国庫の保管者)のもとに提出された。この年のうちにシュローズベリー市は、校地購入費として市費20ポンドの支出を決定した。

2年すると、町役人(土地の領主である王の役人として、地代の集金に当る役人、シュローズベリーの永代借地料は1189年に26ポンド13シリング4ペンスときまっていた一前出)や市民や住民の外に、サロップシアの多数の住民が名をつらねてグラマースクールの必要性を述べ、既に解体された両カレッジが所有していた教会財産の1部を、学校の経営維持にあてるため譲渡してほしいと願い出た。この請願書はヒュー・エドワード(サロップシア出身でロンドンの絹織物商)と町役人リチャード・ホイティカーから提出された。この年の市役所の記録の中に、ホイティカーがこの請願書提出について使用したいろいろな金額の支出が記録されている。例えば1551—52年、ホイティカー、ロンドンから帰着したので、3シリスグ6ペンス支出となっている²⁷⁾。

2 学校の創立許可

エドワード6世の勅許状は1552年2月10日発行された。その条件は学校名を『エドワード6世の無月謝学校』とすることであった。勅許状の冒頭に、この学校の創立はシュローズベリーの町役人、市民、サロップシアの住民、その他近隣に住むわが国民のつましやかな請願によって許可されたこと、学校は1名の校長と1名の助教師で経営されること、学校を運営し維持するために、シュローズベリーの町役人と市民の手に移管される財産は、今は解散した、もとシュローズベリーの町の聖メアリ・カレッジに属していた、サロップシアのアスツレー、……にある村、原野、教区、村落(教会のない小さい村)でとれる、穀物や乾草から納められる10分の1税である。これらの寄贈財産は年間収入20ポンド8シリングに達している。そのうちの8シリングは毎年ミカエル祭(9月29日)の祝宴用として国王の金庫に納付すべきものとする。次に町役人と市民に、校長の適任者を選び任命する権利が与えられ、さらにコヴェントリーとリッチフィールド僧正の忠告を受けた上で、学校を管理し運営するのに必要な規則、学校財産管理上必要な規則の制定権が与えられている。こうして学校創立の法的根拠が与えられた。次はこの勅許状の許可事項として、学校運営上の規則と学校財産管理上の規則制定の仕事が残っている。しかしこの規則制定の仕事が残されたままで、第1代校長が任命されることとなった。思うに子どもたちの教育は

1日もゆるがせにしておけなかったにちがいない。

(さて、このシュローズベリー・グラマー・スクールの勅許状を、ハロー・スクールの教育法【イギリスの教育(6)】で発表したハロー校の勅許状と比較してみる。ハロー・スクールの場合は、王の命令で管理委員を数名指名し、この委員会に王の命令で法人格が与えられ、その上でこの管理委員会に改めて、財産の所有権と処分権、学校運営・財産管理上の規則の制定権を与える手続がとられている。

シュローズベリー・グラマー・スクールの場合、設立主体たるシュローズベリーの町は既に法人格を与えられた、地方自治団体である。住民が「市民」となった時期は、永代借地権を得た1189年までさかのぼることができる。ヘンリー2世の1227年、商人組合に組合事務所を開設することが許されているが、この時は既に組合長が^{ベニジス}生れ、現在の市長として活動し、組合事務所はそのまま市役所となるのである。法人団体であるシュローズベリーの市民に、この勅許状によって、学校の創立、校長・助教師の任命、学校運営と財産管理上の規則制定権という、特権が与えられることとなったのである)。

3 第1代校長トーマス・アシュトン

アシュトンが第1代校長に任命されたのは1562年の新学期のことである。勅許状が発行されて以後の10年間については、何ら記録が残されていない。その理由としては、第1に、若いエドワード6世が早く病死したこと、第2に、次のメアリ女王になると前王時代発行された勅許状の効力が停止されたこと、第3に、伝染性汗熱病が流行したこと(15—16世紀流行した熱病)、第4に、シュローズベリー市に寄贈された10分の1税は、1548年21年間の契約が更新されたばかりであった。これらはみな学校の開校に不利な条件となっていた。

シュローズベリーの財政記録簿1561年6月21日の記事に、学問のある校長トーマス・アシュトンが来年の夏着任すること、その報酬は現在の学校財産の賃貸契約期間が切れる迄は40ポンドとし、助教師は8ポンドとすることに同意した、その記録がある。

トーマス・アシュトン(1562—68在職)

彼は第1代の校長で、またその創立者とも呼ばれ、彼の努力によって学校財産が倍加され、学校運営のよりどころとなる学校規則も彼の創意で制定された。この学校規則は今後2百年間厳重に守られた。アシュトンこそはシュローズベリー校創立時代の中心人物である。

アシュトンの生誕の土地や父母についてはわかっていない。勅許状が発行された時の町役人ホイティカーによれば、アシュトンはランカシアの出身だという。だがもっと最もらしい理由がありそうである。シュローズベリーでは早くから聖霊降臨節(5月中・下旬)を祝うのに、この地方では石切場として知られるセヴァーン河に沿う場所で、キリストに関する秘蹟劇或はぐう意劇が演ぜられていた。アシュトンはそんな演劇の舞台装置や監督の仕事に特に興味と技能をもっていた。彼を最初にシュローズベリーに引きつけたのは、毎年石切場の舞台の評判だったのかも知れない。アシュトンは又シュローズベリーのモレトンに住んでいたアンドリュー・コルペーと親しくし、その子の家庭教師をつとめていた。その二年前に彼はケンブリッジのトリニティ・カレッジの学位を受け、また同校の特別研究員(研究基金から研究費を支給され学生の教授にも当る)となっていた。

アシュトンが着任したのは1562年の新学期で、8月末日と推定される。しかし彼の名は1562

年12月28日の生徒名簿に出てくるのが最初である。名簿には266名の生徒名が記載されている。これが7学級に編成されていたが、次第に入学希望者が増し、また幼年児を入学させ、第8、9の2学級を新設した。生徒は2種類いる。第1は、シュロズベリー市民の子ども（これをオッピダニー『町の子ども』とよんでいる）第2は、それ以外の子ども（これをアリーニー『外来生徒』とよんでいる）この第1と第2の生徒数は同数であった。教師は校長の下に2名の助教師がいた。アシュトン名声は次第に高まり、最初の6年間に約800名が入学した。そのうちオッピダニー（市民の子ども）は277名いた。後の生徒は市外の者で、サロップシアその他の州で、1562年の名簿の1番フィリップ・ストリンガーはバッキンガムシア（ロンドンに近い州）から来ていた。

シュロズベリー校はアシュトンのもとで、イギリス北西部における大バプリック・スクールの地位を確保した。それが創立者たちの意図であった。旅行が極めて困難な時代に学校が交通上の要地に設けられるのは当然なことである。アシュトンこの時代に、彼は「町の生徒」の3倍の「外来生徒」を入学させている。その入学生の名を点検すると、シュロズベリーの周囲の国々の名家から、その子弟がアシュトンのもとにおくられている。その中で最も著名な者は、フィリップ・シドニーとその従兄弟フルケ・グレヴィル、ジェームズ・ハリントンの3人で、彼等は同時に入学した。

フィリップ・シドニー（1554—86）

彼は詩人、政治家、軍人として有名な人物である。彼の父ヘンリーはウェルズ総監で、ルドロー城（サロップシアの南端）に住んでいた。彼は役目上シュロズベリーを訪れ、アシュトンの名声を知り、その子をシュロズベリーにおくる決心をしたにちがいない。因みにフィリップの命名者は、メアリ女王（1553—58在位）の夫である。メアリ女王の夫がスペイン王フィリペ2世であることはご承知の通りである。フィリップは10才でシュロズベリー校に入学し、4年間在学した後、オックスフォードのクライスト・チャーチ・カレッジにすすんだ。学業をおえて後彼は大陸を旅行し、世界の大勢について勉強した。彼は詩人として、政治家として期待されていた。1586年、イギリスはオランダをスペインから開放しようとして、オランダの独立軍を援助した。フィリップは軍人として従軍した。彼はオランダのゾッフェンで作戦行動中、敵弾で負傷し、後病死した。32才であった。彼の死をいたむ哀悼歌は200篇をこえたといふ²⁶⁾。

フルケ・グレヴィル（1554—1628）

彼はフィリップの従兄弟で同時にシュロズベリー校に入学、さらにケンブリッジのジーサス・カレッジにすすみ、軍人、政治家となり、1614年大蔵大臣となり、その功によりブルック男爵家を創立した。

このように北方の名家の子弟をシュロズベリー校に惹きつけたことは、アシュトンが将来シュロズベリー校の財政的基礎を確実にして働く工作上、大変有利に転回することとなった（エリザベス女王から財産の追加寄贈があったことをさす）。

4 創立時代の学校生活

アシュトン校長時代の学校生活については、「アシュトン氏の規則」及び「町役人の規則」、その他生徒名簿等の記録から推測することができる。この頃はまだ校長寮というようなものはなかつ

た。遠方からの外来生徒のためには、彼等を下宿させてもよいという家庭の一覧表が作成されていた。生徒名簿の中に「パントラー」(Pantlers)²⁹⁾と記録されている生徒がいる。この生徒たちの地安と任務についてはわかっていないが、察するところオックスフォード大学の「サーヴィーター」(学内で雑務に従事して学費を免除される学生)、ケンブリッジ大学の「サイザー」(食卓の世話その他に奉仕する特別免費生)に似たものであったと思われる。彼等は皆市外からの生徒であった(従って授業料免除の恩典はない)。彼等は裕福な家庭からきている生徒の召使いとして働き、学費の補助を受けて通学していたと思われる。アシュトンが学校財産収入の多い学校の奨学生制度を考えていたのではないだろうか(ウィンチェスター校、イートン校の奨学生は共に70名いるが月謝食費共免除されている)。アシュトンは校長退職後シュロズベリー校の学校財産獲得交渉に努力している)。この「パントラー」はアシュトン以後の記録から消えている。

1569年以後、アシュトン校長の名は、シュロズベリー校の記録から消えてしまった(しかし2年後の1571年エリザベス女王からシュロズベリー校への学校財産追加譲渡契約書では校長名はアシュトンとなっている。第二教師ローレンスが校長代行であったと思われる。ローレンスの校長就任は1571年となっている)³⁰⁾この頃アシュトンはウォルター・デペロー氏の秘書兼その長子の家庭教師となった。デペローは後のハーフォード卿で、エセックス伯爵家を創立した実力者であった。彼の友人で政界の有力者、サー・ヘンリー・シドニー、サージョージ・ブロムリー等は皆その子をシュロズベリーにおくってくれた人々であった。ハーフォード卿はエリザベス女王に重用されていた。最初は、今は獄にとらわれているスコットランド女王を救出しようとする敵側の動きに対する監視役、後にはノーザンバーランド伯のもとで、北方軍反乱の鎮圧軍司令官として活躍した。アシュトンはハーフォード卿の片腕として活動した(デペローは彼の死後アシュトンに生涯年金40ポンドを残していた)³¹⁾。

その間にもアシュトンはシュロズベリー校の発展策について工夫をこらしていた。第一は、学校財産の追加譲渡交渉である。これは1571年5月23日付、エリザベス女王の契約書によって正式に譲渡されることとなった。この中にはチャペリー教区牧師領に属する10分の1税、寄進された土地、チャペリー小修道院所属の財産で、各地に散在する10分の1税、穀物、乾草等であった。これらの財産からの収入は、クリフ礼拝堂の財産収入年金5ポンド、アスツレー礼拝堂財産収入年5ポンド、聖メアリの代理牧師の財産収入13ポンド余、同教会の1僧侶の維持費としての財産収入6ポンド余、合計凡そ30ポンドに達する金額であった³²⁾。これを1860年度学校財産収入台帳でみると、チャペリー教区内からの財産収入額は年1,269ポンド、その他全財産収入は3,351ポンド、凡そ37%に当たっている³³⁾。アシュトンの努力で約3分の1の財産が追加されたのである。

次は学校規則についてである。学校規則は、管理委員会についての規定、学校財産管理上の規定、次に学校の教師・生徒に関する規定、及び学校運営上の細部の規定等に大別することができる。シュロズベリー校の場合、1578年の『アシュトン氏の規則』及び「町役人の規則」として制定された。何れもアシュトンが中心となっていた。前者は教師の数やその報酬、学校財産の管理の仕方、財産収入の使用法、聖メアリ教会とチャペリー教会の牧師任命の手続き等について規定している。後者は主として校内の業務、即課業とゲームの時間数、生徒のゲーム、教師の資格と任務、町の下宿にいる外来生徒の監督、使用する教科書等について規定している。この2つの規則は勿論エドワード6世の勅許状に従って制定されたもので、今後凡そ200年にわたってシュロズベリー校の管理運営上の原則となった。その要点について述べることにする。

学校付町役人 学校財産からの賃貸料と10分の1税は、学校付町役人が集金する。その報酬は年4ポンド、就任に当っては保証金として300ポンドを積むことになっている。彼は学校財産の収入及び支出の出納事務に当り、彼が記入する会計書類は毎年11月16日市役所内の重要会議が行なわれる金庫室で、町役人と校長によって会計検査が実施される。次に校長がもつ生徒の入学金の会計簿が、町役人によって会計検査が実施される。このシュローズベリーの金庫室は、非常に厳重な構造で1490年建設されていた。この室内には市の重要書類と学校の金庫が保管され、重要な会議もこの室内で行なわれていた。この金庫には次のような秘話が残されている。この厳重な構造の金庫室に、1613年の某日2名の盗人が侵入し、学校の金庫から229ポンド7シリング6ペンスを持ち出した。盗人は捕えられ、死刑が宣告され、市場で絞首刑となった³⁴⁾。

翌17日になると、昨日検査を終わった会計簿と学校の諸記録は、市役所書記の手で、町役人、市の評議員、市会、多くの市民の前で、公開朗読される。それが終ると、宴会となる。その費用20シリングは、町役人がその支出を許可していた。余剰金は全部金庫室の学校金庫に保管される。金庫には4つの錠前と鍵が備えつけられ、鍵は町役人、校長、前任評議員、前任市会議員が保管していた。

町役人と校長は、校舎や校長住宅の修理、法律用件、旅行、その他必要と思われる場合、その金庫から1年間に10ポンド以内に限って支出することができる。校舎の修理用には学校付町役人が11月の検査の節、5ポンド以内を保留しておく。緊急の場合、10ポンド以内の金額を、セント・ジョンズ・カレッジの同意のもとに支出することができた。

余剰金の支出 金庫に保管されている余剰金は将来次に述べる事業をすすめるために積立てられる。

1. 2名の教師のための宿舍建設
2. 図書館と美術館の建設
3. 伝染病流行の際教師と生徒が避難するための田舎の宿舍
4. セント・ジョンズ・カレッジの奨学金（在學生）と2つの特別研究員（卒業生の研究者）を設定すること
5. オックスフォードとケンブリッジにその他の奨学金と特別研究員を設定すること

教師 教師数は4名とし、その報酬は40、30、20、10ポンドとする。校長は文学修士（M・A）の学位を受けて2年以上経過していること、ラテン語とギリシア語に長じていること。第2教師、校長と同様M・Aの学位をもつこと。第3教師、学位は文学士（B・A）、ラテン語に長じていること。第4教師、学位については規定はない、グラマー・スクール付属の初等学校で教える。教師は他の教会の説教を引受け、そのために学校の業務に妨げとなるようなことは許されない。教師の席が空席となったら、残っている教師が町役人に通報しなければならない。町役人は20日以内に、セント・ジョンズ・カレッジの学寮長と評議員に、能力のある適当な人物を選んでおくってくれるよう、通告しなければならない。町役人はカレッジが選ばれた者がその他位に相当だと判断すれば任命する。校長の席が空席となった場合、第2教師がその地位に2年以上いて、校長の地位について充分その職務上の責任を果す能力があると判断され、リッチフィールドとヴェントコリー僧正の同意があれば、町役人によって校長に任命される。同様の考え方で、第3教師は第2教師にすすめられる。

校時表 聖母マリアの祝日（3月25日）から万聖節（11月1日）までは、午前6時から11時まで、午後は零時45分から5時30分まで。万聖節から聖母マリアの祝日までは、午前7時から11

時まで、午後零時45分から4時30分まで。^{ディナー}昼食は11時。

お祈り 冬校時の15分前に鐘が鳴らされる。朝の授業のはじまりと夕方の授業の終りにお祈りがささげられる。

入学時の学力 自分の名前が書けること、英語が完全に読めること、ラテン語の初歩について心得があること。

入学金 入学に際し1回だけ入学金を徴収する。その金額は父親の社会的地位と、その居住する地域によって決定される。

父親の社会的地位

領主の子ども	10	シリング	0	ペンス
^{ナイト} 騎士の子ども	6		6	
^{ジェントルマン} 紳士の長男	3		4	
全の次男以下	2		8	

以上の者以下の階級で

ヨーロッパ以外の子ども	2		0	
全以内の子ども	1		0	
市内の市民以外の者の子ども	0		8	
^{バージス} 市民の子ども	0		4	

(自治都市の城壁内には市民権をもつ『市民』^{バージス}がいる。その他滞在が1年以内の市民権のない者がいる。イギリスを含む北欧の自治都市では、領主、騎士等はその身分のままでは居住することは許されていない⁸⁵⁾。

教科書 ラテン語の散文、シロセ(106—43B・C)の作品、シーザー(100—44B・C)のいろいろな記録もの、リヴィ(59B・C—17A・)の作品、アシュトン編集のシセロの対話篇等。ラテン語の詩、ヴァジル(70—19B・C)、オヴィド(43B・C—17A・D)、ホレース(65—8B・C)等ローマの詩人の作品。ギリシア語の教科書はクレオナルデのギリシア語文法書、ギリシア語聖書、イソクラテス(436—338B・C、アテネの雄弁家)の作品、クセノフォン(434—355B・C、歴史家)の百科辞典等⁸⁶⁾。

(学校管理上の問題点

以上は創立時代の学校運営の概要である。第1代校長アシュトンの努力により生徒数が増し、特に名家の子弟が多数入学してきたことは、アシュトンの学校財産獲得交渉に有利に展開したことを特筆すべきであろう。しかし学校の管理について問題がある。管理機構が三重となっていることである。第1は、2名の町役人^{ベイトフ}が学校財産を管理し、教師(校長を含む)の任命権をもち、学校規則制定の権限をもっていることである。この権限はエドワード6世の勅許状に由来する。それ故アシュトンは学校規則の中でいくら工夫したにちがいない。第2は、セント・ジョンズ・カレッジの教師推せん権と、財産支出承認権である。第3は、校長の教育的行為に対する制限である。助教師の採用に当って町役人の任命権が強大に過ぎれば、校長の助教師選定上の意見と衝突する。次に金銭の支出について制限があり過ぎると思われる。

さて、学校管理の理想的な姿はどうか、これは大きな問題である。ウィンチェスター校イートン校の管理機関職員の報酬と全支出の比をとってみると、前者は学寮長と評議員10名に年8,348ポンド支出し、これは全支出の約40%、後者は学寮長と評議員7名で7,653ポンドで約40%を占めていた【イギリスの教育(6)19頁上段から引用、1860年クラレンドン学校調査委員会報

告書の数字である』。この点についてはハロー校の管理委員会の組織が最も理想的であった。1868年のパブリック・スクール教育法では、各校の管理委員会の改組を命じている。ウィンチェスター校、イートン校は、もともと僧会組織教会として出発し、教区教会を兼ねていたのであるが、教会を切り離し、学校経営のみに専念させることで改革に成功した。(イギリス教育の伝統と未来、45頁、イギリスの教育(6)、ハロー・スクールの教育法——勅許状の研究、19頁参照されたい)。

5 教育法の改訂 (1798年)

18世紀後半に入ると、学校教育の価値が高まり、生徒数が急増してくる。

ウィンチェスター校	1733年	214名
ハロー校	1767年	232名
イートン校	1768年	522名
ラグビー校	1794年	245名 ⁸⁷⁾

この時代シュローズベリー校のジェームズ・アッチェリー (1771—98在職) は、教師任命の不手ぎわを市長、市会議員から指摘され、また優秀な生徒は続々遠方に遊学し、シュローズベリーに引きとめることができなかつた。そこで『アシュトン氏の規則』『町役人の規則』の所で問題点として述べたことが、200年後再検討されることとなった。新しい教育法に要請される最も大きな点は、(1)管理委員会の構成 (2)教師任命の方法 この2点に要約される。新しい教育法はジョージ3世 (1760—1820在位) の治世38年 (1798年) 施行された。

1798年教育法の概要

1 管理委員

- (1) 市長を委員とし、議長とする。委員は市長の外に地域代表を加え、13名で構成する。委員の資格としては、その財産からの地代その他の収入が年間200ポンド以上あることである。
- (2) 管理委員が死亡又は辞任した場合の補充方法は、残った委員が、後任として最適の人物3名を推せん、市長と市の評議員、及び補助員協議の上、3名の中から1名を指名し任命する。

2 管理委員会

- (1) 委員のうち5名以上の出席がなければ開催されない。
- (2) 委員会は年4回 (1月5日、4月5日、7月5日、10月10日) とし、開始時間は午前11時とする。
- (3) 特別委員会 3名以上の委員の請求があれば、特別委員会を開催することができる。6日前に告示するものとする。
- (4) 議長は常に市長とし、賛否同数の場合は市長が決定投票権をもつものとする。

3 教師の任命

- (1) 第一教師 (校長)、第二教師の死亡、辞等、契約失効の場合、市長は14日以内に書面で、セント・ジョンズ・カレッジの学寮長と評議員に通知する。学寮長と評議員は2ヶ月以内に、ケンブリッジとオックスフォード大学内の、少くとも文学士以上の学位をもち、イギリス国教会の会員で、その徳性・学問・思慮深い適任者を選んで推せんする。その候補者はリッチフィールドとコヴェントリー僧正に面接し、彼の免許を得た上で、市長が任命する。

(2) 助教師 校長が任命する。

4 特別奨学生 次の規準に従って選ぶ。

(1) シュローズベリー町の町に生れた者、その郊外に生れた者、或は修道院通り以内に生れた者の法律上の子どもの中から選ぶ。

(2) 以上の者がいない場合、チャペリー教区内に生れた者の中から選ぶ。

(3) 以上の者もない場合、サロップシア内に生れた者の中から選ぶ³⁸⁾。

新管理委員会の初仕事

(1) 年金の決定

新教育法の施行と同時に、教師全員辞任することとなった。新委員会の初仕事は辞任する教師たちの年金の決定であった（1798年6月30日辞任）。年金は、校長アッチェリーに年100ポンド（彼は1755年第三教師に任命され、1763年第二教師、1771年校長となり、43年間の勤続³⁹⁾）、第二教師へ75ポンド（彼は1754年予備教師、1771年第三教師、1783年第二教師となり、44年の勤続⁴⁰⁾）、第三教師年20ポンドであった⁴¹⁾。

(2) 新校長、教師の任命

新校長にサミュエル・バトラー（1774—1839）、外3名が、1798年7日任命された。

Sバトラー（1798—1836在職）

彼はケニルワースに生れ、1783年ラグビー校に入学、8年後セント・ジョンズ・カレッジで学位を得、特別研究生となった（神学博士となったのは1810年）。彼の時代学校は充実し、生徒数は最高となった（1832年295名⁴²⁾）。彼はここに三八年間勤務し、次にリッチフィールド僧正に就任した。教育課程は古いグラマー・スクールのままで、ラテン語とギリシア語が主で、自然科学に関する教科はなかった。彼の教え子の一人

チャールズ・ダーウィン（1809—82）

彼は1818年9才でこの学校に入学し、7年間在学した。彼は「私の心の発達にとって、ドクター・バトラーの学校ほどわるいところはない。学校は、教育の手段としては、ただの空白であった」と自伝に書いている。私教師について、ユークリッドの幾何学を教わったが、これは興味がふかかった⁴³⁾と書いてあるが、これは希望者が別に月謝を払って受ける課外授業をさしている。自然科学に関する教科が正課となるのは、次のケネディ校長時代である。生物学徒ダーウィンにとっては、どの学校も最悪であった。彼がすすんだ大学は、ケンブリッジでもオックスフォードもなく、エジンバラの医学部であったことは、ご承知の通りである。

6 教育課程の現代化

B・H・ケネディ（1836—66在職）の就任

父はバアミンガムのキング・エドワード6世校の教頭で、14才まで父のもとで育てられ、それからシュローズベリー校に入学した。この時代作文（作詩・作文）は最も重視されていた。彼は入学一年後に学校第2位、さらに1年後には学校第一位となった。しかし彼は不器用で、競技方面は不得手であった。彼は校長寮の監督生徒となった。次に彼はセント・ジョンズ・カレッジ（ケンブリッジ）にすすみ、古典第1位、学長賞を受けて卒業し、1828年同校の特別研究生となって残った。

1830年、ハロー校の助教師となった。しかし彼は競技ばかりが重視され、学問的雰囲気のない校風になじめなかった。

イギリスの1830年代

1830年代はイギリス社会の転換期であった。

1832年 選挙法改正（前の選挙法は1430年制定されたものであった）。

1833年 工場法の公布

1834年 全国労働組合連合成立

1837年 ヴィクトリア女王即位

学校教育界においても1大転換期にさしかかっていた。

1828年、トーマス・アーノルドはラグビー校に就任し、彼の道徳・宗教教育中心の教育は、社会の関心を高めていた。

1834年、イートン校ではキーツ教頭のあとを、E・C・ハートレー教頭がつぎ、小学級主義（キーツ教頭の教室には多い頃は180名、後になっても100名位の生徒がいた）に改善し、寮を個室に改善しはじめていた⁴⁴⁾。

このような時代であったので、人事面でも異動が激しかった。ハロー校では1835年ロングレーがリボン僧正に転出し、シュローズベリー校のバトラーも近く転出する予定であった。ケネディはこの渦中にいた。

彼はこの頃の心境を1836年2月、旧校長シュローズベリーのバトラー博士宛の手紙に書いてる。『まさか私がハロー校長の候補となるとは思っていませんが、しかしかりに私にその申出があったとしても、私はその申出を受けるつもりはありません。私はむしろシュローズベリーが選びたい。たとえ20年後に、ハロー校におれば5,000ポンドの収入で、シュローズベリー校では5分の1—1,000ポンドしかもらえないにしても……』⁴⁵⁾。これはバトラー博士が最も聞いたかった言葉であった。バトラー博士は後任がケネディと決定して後、リッチフィールド僧正に栄進した。

シュローズベリー校長就任

ケネディは家族と共に校長寮に入った（彼は1831年ジャネット夫人と結婚していた）。新校長夫妻の人気は上々であった。「土曜日、夜、9時になると、全教師が校長宅の夕食に集ってきた。この時は仕事の上のことは殆んど話題にならなかった。ジャネット夫人が中心になって、なごやかな雰囲気であった。日曜日の夜は、生徒達の夕食会であった。この席には監督生徒と最上級生が交代で招かれた。この宴会にはいつも皿をみたしている料理は、「羊肉の焼肉」であったので、この夕食会は『マッレックに行く』とよばれていた⁴⁶⁾」。

1860年の学校経営概要

(1) 学校財産収入

聖メアリ教区内10分の1税	1,310ポンド余
聖チャド教区内10分の1税	972
チャペリ教区内10分の1税	1,169
その他の賃貸料収入	31
3分利公債利息	270
合計	3,752

(2) 学校財産支払

(イ) 教師報酬	校長	425ポンド		
	同 教義問答説教者	40		
	第二教師	200		
	助教師	100		
	フランス語教師	50		
	補助書写算術教師	55		
	学校町役人 (集金人)	105		
(ロ) 特別奨学金 (7名分)		367		
(ハ) 牧師の給料 (聖メアリ教会牧師外6名分)		740		
(ニ) 救貧費		177		
(ホ) 道路費		198		
(ヘ) 修繕費		362		
(ト) 寄付その他				
	聖チャド学校への寄付金	10		
	ミドルトン学校への寄付金	15		
	クライブ学校への寄付金	5		
	聖メアリ学校への寄付金	5		
	校長賞賞品代	23		
(4) 税金		219		
	合計	3,096		
(2) 生徒数	131名 (1861年10月14日現在)			
	6年級 22名 (6年上級12名, 6年下級10名), 5年級 35名			
	4年級 34名 3・2・1年級 40名			
	生徒数は1832年295名, 36年228名 (ケネディ就任の年), 所がその後減少してこの年は131名となった。その原因は最近学校が増設されたこと, 特にシュローズベリーに鉄道が開通したこと (1848年) ⁴⁷⁾ があげられている。生徒は通学生と寮生である。			
	通学生 60名 内22名はシュローズベリー ^{ベージュ} 市民の子どもで, 月謝 (年15ポンド15シリング) は学校規則によって免除される。			
	寮生 71名			
	校長寮 (上級生寮) 30名			
	同 (下級生寮) 34名			
	第二教師寮 5名			
	現代外国語教師寮 2名			
	寮生の学費 (某監督生徒半年間の決算書)			
(イ) 寮費 (寝台使用料クリケット運動場使用料 入浴洗濯費を含む)		28ポンド	12シリング	6ペンス
(ロ) 月謝		7	17	6
(ハ) 個人指導教師へ		2	2	0
(ニ) 小遣い (1週1シリング宛)			19	0
(ホ) 特判賞 (5シリング宛4回)		1	0	0

(v) 書籍洋服靴その他

1860年の学校経営概況

合計

47 18 9

特別賞 この学校の訓育は、賞と罰を適当に与えることで保たれている。教師は生徒1人々々について賞罰の記録簿をもっている。1ヶ月間の古典、数学、フランス語等教科の成績、礼拝堂の出席等を点数で評価し、1定の点数を越えれば、翌月半日休暇を与え、又は5シリングの特別賞を与える。罰は書取りなどが科される。

(3) 教師数とその報酬

管理委員会が支払う教師 5名

校長が支払う教師 3名

(古典/校長とも4名、数学1名 フランス語1名、書写教師1名、臨時教師1名)

教師の給与源は次の5通りである。(i)管理委員会 (ii)校長から (iii)月謝収入の人頭割配分

(iv)個人指導 (v)寮生から

次に全教師の(i)(ii)(iii)を示す。

	月謝収入の人頭割配分			報酬
校長				465ポンド
第2教師	2	12	6	200
第3教師	1	5	0	100
第1助教師	2	0	0	△100
第2助教師	1	0	0	△100
第3助教師(数学)	1	0	0	△100
現代外国語教師	2	2	0	{ 50 △ 52
臨時教師	1	0	0	25

月謝の人頭割と△印は校長が配分する。第2助教師は個人指導と通学生の指導に当る。臨時教師は市民の子どもに書写指導を実施し年間30ポンドの収入がある。

校長の報酬

管理委員会から 425ポンド

同 教義問答説教者として 40

月謝人頭割(100名分として) 482

入学金 150

寮生から(1名21ポンド)の収入 1,500

合計 2,597

この中から△352ポンドを助教師に支払い、残額凡そ2,245ポンドが校長の収入と推定される。

尚校長は教義問答説教者として当然聖職位保持者でなくてはならないが、シュローズベリー校の他の教師は、現代外国語教師を除き全員聖職位保持者である。

(4) 特別奨学生

(i) 管理委6名 セント・ジョンズ・カレッジ 50ポンド4年支給

同 2名 同じ 17ポンド10シリング毎年選ぶ

(ii) ケアス氏遺言により設定 12名 オックスフォード・クライスト・チャーチ・カレッジ60ポンド4名, 21ポンド4名, 27ポンド4名, 全員4年支給

この外に12名いる

合計34名, 1,278ポンド (1名年平均37ポンド支給)

(5) 教育課程の現代化

ケネディは31年間の長期にわたって学校経営に当った。彼が重点的に努力した5点、

- (イ) 教育課程の現代化 従来の課程を古典科とし、数学とフランス語を正課として加えた。次に軍人や役人を目的とする者のために、『現代科』を新設し、自然科学(物理・化学)、数学、地理、歴史学の教科を加えた。
- (ロ) 寮の改善 従来は40名から60名も収容していた寮を、17名前後の人数とし、生徒は生活し易く、教師側からは生活指導がしやすくなった。
- (ハ) 学校帽を採用した 新しく学校帽を新設し、これを学校内外で着用させることとした。これは校外における監督指導に新境地をひらくことと戯った。
- (ニ) 学校競技の採用 クリケット、フットボール、ボート競技を採用し、奨励することとした。
- (ホ) 宗教教育の改善

第2表

校長の週授業計画表		6年上級(13名) 下級(10名) 計23名 (1860年12月)
日	8:15 — 9:00	ギリシア語聖書訳読
	11:00	セント・メアリ教会の聖さん式(生徒は自由出席)
	3:00	礼拝堂 説教者は校長
	7:00 — 9:00	神学
	9:00 — 9:20	聖書朗読, 夕べの祈り
月	7:30 — 8:30	ギリシア語聖書訳読
	10:00 — 12:00	ラテン語ギリシア語作品訳読
	3:00 — 5:00	同上
火	7:30 — 8:30	ヴァージルの反復練習
	10:00 — 11:00	アーノルドのギリシア語散文(6年下級10名) 数学(6年上級12名)
	11:00 — 12:00	ギリシア語又はラテン語の作品訳読
	3:00 — 4:00	歴史
水	7:30 — 8:30	ヴァージルの反復練習
	10:30 — 12:00	ラテン語, ギリシア語の作品訳読
	3:00 — 5:00	同上
木	7:30 — 8:30	アリストファネス(6年上級12名) 数学(6年下級10名)
	10:00 — 12:00	ラテン語, ギリシア語の作品訳読
	3:00 — 4:00	歴史
金	水曜と同じ	
土	7:30 — 8:30	数学(6年上級) フランス語(6年下級)
	10:00 — 12:00	数学
	ギリシア語(10) ラテン語(10) 歴史(2) 神学(2) 数学(3) フランス語(1) 計28 作文の課題は月曜出される。ラテン語, ギリシア語の詩の作品は木曜日提出する。	

注, Report, II., P. 485 から引用

最も大きな変化は、ラグビー校のアーノルド博士によって広められた影響、即宗教教育上の改革である。この点についてはケネディ自身の証言から引用することにしよう。『シュローズベリーにおいても改革が必要であった。又それを実行するにしてもそう困難はなかった。何故ならば私が学校をよくするために何かを計画すると、6年級生徒はすぐ私に協力してくれたからです。アーノルド博士はパブリック・スクールの少年たちに、宗教教育が可能であることを示してくれた。(過去の教育者たちは、学校における宗教教育は神をけがし、或は偽善者をつくるものだとし、その効果を疑い、或は否定したのであったが)。私はアーノルド博士の手に励まされて、礼拝堂で全生徒に初めて聖ごん式に参加すべきことを呼びかけた。……次の日曜日、説教の後に学校でははじめて28名の生徒が聖ごん式に出席した。その時以来現在まで多数の者が聖ごん式に出席している」⁴⁸⁾。第2表はケネディの6年級週授業計画表である。

7. 学校の移転改築 (1882年)

管理委員会は再度編成し直すこととなった。それはパブリック・スクール教育法(1868年施行)の趣旨にそうもので、新たにオックスフォード大学代表、ケンブリッジ大学代表、王立学士院代表、大法院代表等を加え、1871年発足した⁴⁹⁾。新委員会は、将来の義務教育を予想する1870年教育法が施行された現在、この学校は新しい構想のもとに百年の計画を出発すべきだとして、学校の移転改築計画をすすめることとした。

彼等が最終的に選んだのは、あの『^{キングズランド}王の土地』である。ここは前にも述べたことのある由緒ある土地である。シュローズベリー「^{ソックス}行列」の行われる土地である。管理委員会は1875年、市から27エーカーを買いとり、校舎、校長寮等を新築した上で、1882年移転した。今やこの学校の任務は一段と重くなってきた。国民教育としての初等学校は、全村落に設立されている。シュローズベリー校に期待されるものは、サロップシアの中心で、全国的水準の学校たることである。去る1860年の、クラレンドン学校調査委員会の調査対象としてこのシュロースベリー校はイギリス9大校の1として数えられた。この名誉を汚さないような学校に育てようというのが、各委員の念願であった。

8. 現 況

シュローズベリー校の現在生徒は、540名、内寮生は493名、通学生42名である(ラグビー校715名、ハロー校653名、チャーターハウス校650名、以上1962年の調査)。オックスフォード、ケンブリッジ大学への特別奨学生派遣数この5年間の合計は、マンチェスター校(直接補助学校)が最高の140名、ラグビー校72名で第6位、シュロースベリー校は51名の第16位である⁵⁰⁾。

8. 付 録

1. エドワード六世の勅許状 (1552年)

エドワード六世は、イングランド、フランス、アイルランドの王として、神の恵みにより、信仰の擁護者、イギリス、アイルランド教会の地上の最高権威者として、この勅許状が与えられるすべての者に、サロップシアのシュローズベリー町の^{ベイルフ}町役人、^{パージ}市民、^{インハビタント}住民と同じくその周辺のすべての住民のつつまじやかな請願、即青少年の教育のために、われらの特別な恵み、われらの確

かな知恵と自発的行為によって、グラマー・スクールを設立してほしいという願いをもつ者に対し、今後シュローズベリーに1つのグラマー・スクールを設立することを、この勅許状によって許可し、設立するよう命令する。この学校の名称は『青少年に文法を教えるエドワード6世の無月謝学校』とすること、同校はこの勅許状によって選ばれた1名の校長と1名の助教師によって、今後永久に継続さるべきものとする。次にわれらはこの計画と目的を達するため、われらの特別の恵み、たしかな知恵、自発的な意志をもち、この勅許状によって、シュローズベリーの町の町役人と市民に、今は解散したもとシュローズベリーの町の聖メアリ・カレッジに属していた、サロップシアのアスツレー、センサー、クリフ、レトンとアルモン・パークにある村、原野、教区、村落（教区教会のない小さい村）でとれる、穀物や乾草からの10分の1税を与えることを許可する。次に同様に、今は解散した旧聖チャド・カレッジに属していたフランクウェル、ベットン、ウッドコート、ホートン、ビクトンとウェルバハの村、原野、教区や村落からとれる穀物や乾草からの10分の1税、その他の不動産、土地等の一切の相続権、次にわが治世の第1年（1547年）ウェストミンスター¹⁾の議会で成立した、礼拝堂・カレッジ・同業組合・無料の礼拝所・信徒団を解散するための法律で、当然われらの所有となるべきもので、先に述べたカレッジの教師、学寮長、僧会員や、その他の聖職者、管理委員等に、適切な方法で遺贈され許可されていた不動産や土地等に保留されていた地代収益等を、われらの心からの寛大さ、英知と自発的意志をもって与えることを許可する。10分の1税とその他すべての財産からの収益は明瞭に20ポンド8シリングに達し、これはシュローズベリーの町の町役人と市民及びその後継者が永久に所有すべきものとする、そしてすべての使用料、奉仕料（騎士上納金等）、請求権等の代償として、英貨8シリングを、ミカエル祭（9月29日）のお祝いとして王の金庫に納入すべきものとする。次にわれらはこの勅許状によって、シュローズベリーの町の町役人と市民に、聖ミカエル祭以後先に述べた10分の1税とその他の不動産からの、すべての利益金、使用料、収入を与えることを許可し、その代償としては何らの貸借勘定は生じないものとする（勅許状の交付は無料とする意味）。そして、われらの恵みとたしかな知恵から、われらはこの勅許状によって、先に述べた町役人と市民及びその後継者に、先に述べた学校の校長と助教師、及び彼等が欠員となった場合に、彼等を指名し任命するための、完全な能力と権威を与え、次に町役人と市民は、リッチフィールドとコヴェントリーの僧正の忠告を得て、先に述べた学校の秩序維持、管理、校長・に関する事項、助教師・生徒への指揮監督、校長・助教師の年金と報酬、校務その他学校維持のための賃貸料や収入の管理について、文書による最も適当で有益な学校規則と規定を作成するための、完全な能力と権威を与えるものとする。かようにして制定された学校規則と規定を、われらはこれを許可し、永久に他の何者にも侵かされることのないことを、この勅許状によって命ずるものとする。さらにわれらのもっと大きな恵みをもって、われらはこの勅許状により、シュローズベリーの町の町役人と市民及びその後継者に、イギリス国内のどこにおいても、領地、家屋敷、土地、賃貸料、牧師館、10分の一税、その他の世襲財産を、所有し、受領し、購入するのに必要な、特別な免許（死手譲渡法の免除）と法的能力を与えることとする、それ故土地や賃貸料は死手譲渡（不動産を宗教団体慈善団体に譲渡した場合は永久に他に譲渡できないことを1279年の法律で定めた²⁾）から解除され、その他のいかなる規則、法律、命令等が反対するよう作成されることのない形で、われらによって町役人と市民及びその後継者に譲渡された、10分の1税とその他の不動産の総額は丁度20ポンドである。そしてこれらは、前に述べた10分の1税と、ここで許可された土地や、町役人や市民が購入した土地や賃貸料や世襲財産の収益、利益、地代等のすべてを、

永久に、前述の学校の支持と維持のために、転用するよう処置する。そしてわれらはこの勅許状によって、先に述べた町役人と市民に、彼等が大英国の印をもち、われらの使用に供するための負担金又は納付金（勅許状はその特権の大小に応じ大小の納付金がつくのが普通であるが、一つの免税措置である）のついていない勅許状、そしてこれらが許可した寄贈財産の価値に変更はなく、土地台帳は先に述べた町役人と市民の所有に書き提えられ、そして彼等の後継者たちも、この勅許状に反対するため作成された他の勅許状、或は規則・法令等からも制限を受けることのない、勅許状を受けることを許可する。われらはこの文書に特許を与えることを誓う。エドワード6世王の第6年二月10日、ウェストミンスターにおいて⁵²⁾。

2 アシュトン氏の規則（一部省略）

聖メアリ教会の収入と牧師

書記、サロップシアのサロップの町にあるエドワード6世王の無月謝学校の前校長トーマス・アシュトンが、イギリス、フランス、アイルランドの王、神の擁護者であるエリザベス女王の治世第20年（1578年）2月11日、学校の維持のために与えられた、サロップシアのチャペリー牧師領の、賃貸料や収入、すべての土地、10分の1税、その他の世襲財産の使用や贈与に関して、次に聖メアリ教会に奉仕する聖職者の任命とその規定、及び聖職者の年金と報酬について制定した規則は、次の如し。

3人の教師とその報酬

第1 チャペリーの牧師領の賃貸借契約終了（1577年9月）後は、無月謝学校で教える教師は今後永久に3名とし、その中の1名は校長と呼ばれ、年間の報酬は40ポンドとし、第2教師の年間の報酬は30ポンドとし、第3教師の年間報酬は20ポンドとする。

補助教師又は第4教師

第2 先に述べた無月謝学校に付属する若い初学者のために、補助教師をおくものとする。その補助教師は町役人や校長が便利だと思ふ場所にいるものとする。この補助教師は年間10ポンド受けるものとする。もし学校財産収入が所定の報酬額に達しない場合は、さきに述べた報酬額は収入額に比例して支給するものとする。

学校駐在の町役人

第3 学校維持のため与えられた牧師領その他の不動産からの利益金集金のために、1名の学校町役人スカラー・ベイスフをおくものとする。この集金人はその職務を遂行するため年4ポンド支給するものとする。デーヴィッド・ロングドンが生涯その職に忠実に勤務するという条件で、集金人に任じ、そのために彼は町役人と市民に対し、保証金300ポンドを積みねばならない。

<デーヴィッド・ロングドン>

アシュトンはロングドンを1573年10日以前に、学校は町役人に任命していた。彼の報酬を確保するためフランクエル他1ヶ所の10分の1税賃貸契約の継承権を与えていた。現在の契約者はこの土地を1584年まで年3ポンドで借りていた。ロングドンの名前は1585年の会計検査に借地人として出てくる。彼の地代は年20ポンドであった。彼は本来の職業は靴屋であったが、学校は町役人をやっている外に、町の下級役人もつとめ、1579年には職杖クエツを持つことを許された下級行政官に任ぜられた。彼は1586年死んだ。しかし農場は彼の寡婦が契約がきれる迄経営していた⁵³⁾。

尚保証金は1613年の大法院布告によって、2倍の600ポンドに引上げられた⁵⁴⁾。

会計検査は11月16日

第4 これから以後は11月16日の午前中、学校財産の集金に当る学校付町役人は、彼の会計とその他委任された事項の過去1年間について、町役人と校長に報告せねばならない。

11月17日（エリザベス女王即位の日）

第5 11月17日の午後は毎年、町の事務長は第4条の会計やその他の事項を、町役人、評議員、市会議員、市民の前で、朝読するものとする。終了後、祝宴を開くものとする。その費用は20シリングとする。

余剰金について

第6 すべての年金、報酬、諸費用を支払った後、賃貸料収入の残金・余剰金は、サロップの金庫室が提供する安全で強固な金庫に保管すべきである。

学校金庫の鍵

第7 以上の金庫は4つの丈夫な錠前と鍵をつけている。鍵はそれぞれ町役人、前任評議員、校長、前任市会議員が保管するものとする。

修復と法律上の要件に支払え

第8 もし余剰金が出るならば、校舎の修復、校長住宅の修繕、学校が必要とするいろいろなもの、或は学校が必要とする事務で、馬又は旅行の費用に使用すべきである。法律上の訴訟事件の場合はすべての支払いは差止むべきである。もし10ポンド以上の金額を支払い、又は寄贈すべきことがおこった場合には、ケンブリッジ大学のセント・ジョンズ・カレッジの学寮長と評議員の同意を得た上で、余剰金の中から支払うものとする。

校舎の建設を第1に

第9 余剰金は先づ校地内に2名の教師が使用する充分な校舎の建設にあてるべきである。教師のための住宅建設後尚余剰金があれば、適当な場所に書籍、地図、地球儀、天文学の器具、その他教授上必要な道具で一杯の、図書館と美術館を建設すべきである。

学校付町役人の手もと金

第10 学校や教師住宅の補修費として、年5ポンドをこえない金額を、学校付町役人の手もとに保管させるものとする。

避難用校舎

第11 前に述べた建てものの建設が終って後に、教師と生徒のために一軒の家を田舎に用意すべきである。その目的はサロップの町に流行病や伝染病が発生した場合、避難させるためのものである。

2名の奨学生と2名の特別研究生の創設

第12 建物と校舎が建設され用意され、余剰金が尚100ポンド以上となるならば、土地その他の世襲財産を購入すべきである。次にセント・ジョンズ・カレッジ内に、2名の奨学生と2名の特別研究生を創設し、維持するようにするか、或はサロップの町役人と市民は校長と協議の上、2名の奨学生と2名の特別研究生を創設する準備をすすめるよう、そして奨学生には毎週12ペンス、特別研究生には毎週2シリングを支給するよう、その選定は前述の無月謝学校の生徒からとし、選定の規準は次の通りとする。

(1) 奨学生はサロップの町に生れたか、又は生れてくる者とする、そのような者がいない場合は、同じ町の郊外か、それに続く修道院通り以内の者とする、以上の者は当然法律上の市民の子どもであって、選定の目的に合致する適当な者でなくてはならぬ。

- (2) 以上に述べる者がいない場合は、選定は前述の学校に在学する者のうち、前述の町の選挙権をもつ者の子どもの中から行なわれる。
- (3) 以上に述べるような者がいない場合は、次の選定はサロップシアのチャペリー教区内に生れ、前述の学校に在学している者の中から行なわれる。
- (4) 以上述べたような生徒がいない場合、選定はサロップシアの中で生れ、前述の学校に在学している者の中から行なわれる。そして以上の選定は毎年セント・ジョンズ・カレッジの学寮長と先任教授の手で行なわれる、町役人と校長は選定が行なわれる前に、学寮長と先任教授に書面で市民の子どもかどうか、先に挙げた順序について通報するものとする。そして前に述べた学寮長と先任教授は、定められた順序に従って、性格が良くて貧しく、その上學問のできる学生を適任者として選定するものとする。

(奨学生、特別研究生について)

ここにいう奨学生とは各学校が奨学金を支給して大学におくる学生で、これは又大学自体のもつ基金で設ける場合もある。特別研究生とは、大学で下位の学位をとった者が、研究基金から研究費を支給され、学内に生活し、教授・講師・教師を兼ねて学生に教えながら、自分は上級の学位を目標として研究を続けている学究のことをいう。この研究基金をシュローズペリー校の学校財産収入から設定せよというのである。

さて、シュローズペリー校の奨学生制度はどのように充実したか。16代校長B・H・ケネディ(1836—66在職)が1861年、クラレンドン学校調査委員会への報告によると、セント・ジョンズ・カレッジへの奨学生10名(奨学金年間合計405ポンド、4年間支給)、その他のカレッジへ派遣されている奨学生16名、合計26名、奨学金合計1,260ポンドに達している⁵⁵⁾。

イギリスにおける奨学生制度は、学校が教会や修道院内に開設された時にさかのぼる。学問のある僧が生活費は教会から支給されながら、回廊等を教室にして、無料で教え、能力ある者には学費を支給して大学で学問をさせ、学業成った後いつかその成果を社会に還元することを期待していた。筆者はこの奨学生と奨学金について調べたことがある。(イギリス教育の伝統と未来、帝国地方行政学会発行、115頁、第10表、特別奨学資金支給金額及支給件数一覧、1861—68年)調査グラマー・スクール795校、奨学金件数953件、総額32,271ポンド、1件平均約44ポンド、奨学生を大学におくっている学校は、795校のうち301校に達していた)。

奨学生、特別研究生の増員

第13 前に述べた2名の奨学生と特別研究生が創設され、その上尚余剰金があるならば、前述の無月謝学校の生徒のために、町役人と校長が考える最もよい方法で、ケンブリッジとオックスフォードのカレッジ内に、奨学生と特設研究生を新たに創設するよう、贈与さるべきである。

聖メアリ教会の牧師

第17 サロップの町の聖メアリ教区教会の牧師として奉仕する者は、得らるるならばシュローズペリー市民の子どもであって、前に述べた無月謝学校に在学し、卒業した者の中の適当な者か、それが得られない場合は、チャペリー教区で生れた適当な者を選ぶものとする。牧師はその報酬として年20ポンド受けるものとし、その報酬は教師がそれを受けているのと同じ方法で、地代を集める町役人から受取るものとする。

定住すべし

第18 聖メアリ教会の牧師は自らそこに住むものとする。1年間に1ヶ月以上留守することは許されるない。その原因が病気とか、町役人と校長が納得できる理由があれば別である。牧師が欠

勤する場合には充分役に立つ代理者をおかねばならぬ。

牧師の行動について

第19 前に述べた牧師は、かけ勝負とか居酒屋其の他悪のはびこる場所の定連であってはならない。また彼が牧師職に選ばれる時に、不道德なものを身につけているとか、又その後もそんなことがあってはならない。

罰 則

第20 前述のように選ばれた牧師が、前に述べたにも拘らず、定住しなかったら、町役人と校長によって、彼が受けている聖職禄と牧師職から追放さるべきである。またその他の不道德な行為、職務に怠慢であったりして町役人と校長から三度も忠告されながら、改心しなかったら、前同様に追放されるものとする。これはチャペリー教会においても同様とする。

以上述べてきたこの規則の意味について、あいまいな点、疑問点がおこったならば、直ちに町の裁判官、生好中ならばトーマス・アシュトン氏、或は町役人と校長が適当と考える人が、最もよい説明者・解説者となるであろう⁵⁶⁾。

3 町役人の規則

サロップの町の町役人と市民は、コベントリーとリッチフィールド僧正トーマス師と前校長アシュトン氏の助言と同意のもとに、さきに述べた無月謝学校の教師と奨学生が守るべき規則、即その素質、作法、学習についてと同様、次に選定、入学許可、退学、教授方法、教授時間、教科書の著者等について作成した規則は、次に示す通りである。

第1 教師についての制限

教師は飲食店や競技場その他むだ遣いをするような、店を経営してはならない。

第2 教師の寡婦

この学校に勤務した教師が死亡したり、又は他に転出した場合、その妻と家族は三ヶ月以内にその住居を去らねばならない。

第3 校長の条件

校長の選任の条件としては、文学修士(M, A)の学位をとって後少くとも2ヶ年経過し、ラテン語とギリシア語に優秀な能力を持っている者でなくてはならぬ。

第4 第2教師

第2教師の条件は、少くとも文学修士であること、ラテン語とギリシア語に優秀な能力を持っている者でなくてはならぬ。

第5 第3教師

第3教師の条件は、少くとも文学士(B, A)の学位をもち、ラテン語に優秀な能力を持つ者でなくてはならぬ。

第6 教師の兼職禁止

教師はこの学校の教師である間は、他の教会の教師職や説教師を引受けてはならない。

第7 教師の選任

先に述べた無月謝学校の教師の、3つの席の何れかが空席となった場合、残っている教師はその旨を町の町役人に通報せねばならない。町役人はエドワード6世の勅許状にもとずき、コベントリーとリッチフィールド僧正の助言を受けて、空席となった教師を指名し、任命しなければならない。しかしながら、そのような教師はその地位をみだすにふさわしい人物でなくてはならぬ。

いし、またその人物は出来るならば先に述べた無月謝学校のかつての奨学生であってほしいので、シュローズベリーの町の町役人は、空席の通報を受けて20日以内に、ケンブリッジ大学内のセント・ジョンズ・カレッジの学寮長と評議員に教師の空席が出来たことを知らせ、以下に示す条件に従い1名の能力のある教師にふさわしい人物を、面接した上で選定し、町役人のもとにおいてくれるよう依頼する。その条件とは、(1)サロップの町に生まれた、市民の法律上の子どもで、できるならばこの無月謝学校の奨学生であること。(2)上の条件に該当する人物がない場合は、町内に住んでいる選挙権のある人の子どもか、町に続く修道院通り以内に住む市民の法律上の子どもであって、かつてこの無月謝学校の奨学生であった者。(3)それもない場合は、チャペリー教区内に生れ、この学校で教育を受けた者。(4)それもない場合は、どの州の出身でもよいが、学寮長と評議員の選んだ適任者であることである。

第8 僧正の面接

選ばれた候補者は、学校規則にきめられた通り、先ずコベントリーとリッチフィールド僧正の面接を受け、ついで町役人の試問を受ける。この教師候補者がもし町役人に嫌われたならば、直ちにその理由を学寮長と評議員に告げ、ついで新たな教師の選択がはじめられる。

第9 教師の宣誓

すべての教師はその地位につくことを許可さるる時に、町役場の金庫室の町役人の前で、聖書に手をおいて宣誓せねばならない。その文句は次の通りである。校長は、学校に入学を許可された全生徒の正確な名簿を作成する、入学に当って納入する入学金の正確な会計簿を作成することを誓わねばならぬ。また学校財産の賃貸借契約が行われる際には、彼は学校経営が有利にすすめられるよう、年々の地代が確実に入るよう、えこひいきや不公平、不正や欺まんがないよう発言することを、誓わねばならない。

第10 第2、第3教師の宣誓

第2、第3の教師は、入学金についてはその1部たりとも保留しない。また校長の同意なくしては1名の奨学生の入学も認めないし、又は退学もさせない、と誓わねばならない。

第14 1度任命された教師は、いつまでもその地位を楽しんでよい。軽い程度の憶測や悪意ある論争位では解雇されることはない。ただし悪い行為や法律上の犯罪や、或は彼等が就職の時に宣誓した学校規則を破ったり、或は教授すべき時間に学校を無断で欠勤したり、或は常習の勝負師、飲み屋の常連となり、或は偽証したりするならば、直ちに解雇するものとする。次にもう少し軽い戒告に当る程度の場合、町役人が2度までは戒告を繰返し、次にコベントリーとリッチフィールド僧正の書簡により戒告する。上3度の戒告が行われたにも拘らず改心の実が現われなり場合は、町役人が解雇するものとする。

第17 昇任の方法

校長がその職を譲り又は死亡した場合、もし第2教師が少くとも2年以上その地位にあって、その学問、熱心さ、会話能力、誠実さが校長の地位に堪えると判断されるならば、コベントリーとリッチフィールド僧正の同意のもとに、町役人によって校長に任命されるものとする。同様に、第2教師が死亡し又は転職した場合、第3教師が文学修士(M, A)の学位をもっているならば直ちに、又は現在は文学士(B, A)だが既に2年以上経過していて、その学力と誠実さは校長と同等であるならば、町役人の同意のもとに、昇任させられる。このような昇任が実施されたならば、町役人はセントジョンズ・カレッジの学寮長と評議員に通告すべきものとする。

第18 登校時間

聖母マリアお潔めの日（2月2日）から万聖節（11月1日）までは午前6時、その他の季節は午前7時。

第19 下校時間

生徒の昼食後の登校時間は午後零時45分、下校時間は冬は4時半、夏は5時半。

第20 学校でのお祈り

学校でのお祈りは毎朝始業のベルが鳴り終わったらすぐ、膝まずいて唱えられ、夕方学校が終る時も同様である。

第24 入学許可

この無月謝学校への入学が許される者は、次のことができることが条件である。即、自分の手で自分の名前が書けること、英語が完全に読めること、書物なしに語形変化がいえること、能動詞のどの数の人称でもいえること、そしてラテン語が与えられたら、その語の数、性、人称の変化がいえること等である。

第25 入学金

入学金は次の通りとする。領主の子10シリング、騎士の子6シリング8ペンス、紳士の長子3シリング4ペンス、紳士の次子以下2シリング6ペンス、その他の子どもでサロップシア以外の者2シリング、同じく以内の者12ペンス、市内の市民の子4ペンス、同じく住民の子8ペンス。

第34 教科書

ラテン語の散文、シロセ^シシーザー、リヴィの作品と前校長アシュトン編さんのシゼロの対話集。ラテン語の詩、ヴァーヅル、ホレース、オーヴィドの作品等。ギリシア語、クレオナルドのギリシア語文法書、ギリシア語聖書、イソクラテス、クセノフォンの作品等。以下38条まで省略⁵⁷⁾。

注

- 1) A. F. Leach : The Schools of Medieval England, 1969, pp. 3-6 以下 Medieval と略称する。
- 2) A. F. Leach : English Schools at the Reformation 1546-1548, 1968, p. 11 以下 Reformation と略称する。
- 3) Medieval : p. 76
- 4) Doris Mary Stenton : English Society of Early Middle Ages, p. 157
- 5) Medieval : p. 77
- 6) Reformation : p. 12
- 7) Oxford English Dictionary による。
- 8) 石丸重治 : 英国教会本寺考, pp. 35-6
- 9) 永代借地権、同業組合が連合して商人組合を結成し、彼等が共同して領主である王から一定の広さの地域を、年間一定の借地料を払う約定で借り受け、勅許状によって自治権をもつ都市をつくった。これが自治都市 (Borough) で組合事務所 (Guildhall) は後に市役所 (ギルドホール) となった。
- 10) W. J. Pendlebury : Shrewsbury School Recent Years, 1934, pp. 15-6
- 11) Encyclopaedia Britannica, 20
- 12) Reformation : pp. 180-1
- 13) Ibid : p. 48
- 14) Medieval : P. 78, pp. 113-4
- 15) Reformation : P. 34
- 16) J. A. Graham : The Manchester Grammar School, 1965, P. 11
- 17) Reformation : pp. 179-184

- 18) Ibid : pp. 91-2
- 19) Pooley : The Guilds of the City of London, 1945
- 20) W. J. Ashley : An Introduction to English Economic History, I., P. 96
- 21) Pouley : pp. 7-14
- 22) 池田良三 : イギリスの教育 (6) ハロースクールの教育法, pp. 9-10
- 23) Britannica, 14
- 24) Graham : pp. 3-8
- 25) T. W. Bamford : The Rise of the Public Schools, 1967, P. 264, P. 309
- 26) Graham : pp. 82-9
- 27) G. W. Fisher : Annals of Shrewsbury School., 1899, P. 3 注2 以下 Annals と略称する。
- 28) Britannica, 20
- 29) Annals : pp. 16-7
- 30) Ibid : P. 464
- 31) Ibid : p. 28
- 32) H. Staunton : The Great Schools of England, 1877, p. 332
- 33) Report of Her Majesty's Commissioners appointed to inquire into the Revenues and Management of certain Colleges and Schools, 1864, vol. II., pp. 320-1 以下 Report と略称する。
- 34) Annals : p. 36 注2
- 35) 北欧の自治都市, 池田良三 : イギリスの学校教育 (帝国地方行政学会発行), 自治都市 (pp. 48-54) の項参照されたい。
- 36) Annals : pp. 1-47
- 37) 池田良三 : イギリス教育の伝統と未来 (帝国地方行政学会発行), p. 124
- 38) Report, II., pp. 597-601
- 39) Annals : p. 470
- 40) Ibid : p. 470
- 41) Ibid : p. 260
- 42) Report, II., p. 324
- 43) ダーウインの生涯 (岩波新書), p. 38
- 44) イギリス教育の伝統と未来, pp. 205-213
- 45) F.D. How : Six Great Schoolmasters, 1904, p. 98
- 46) Ibid : p. 99
- 47) Annals : p. 334
- 48) Report, II., p. 327
- 49) Annals : P. 370
- 50) Bamford : P. 309, P. 331
- 51) イギリスの教育 (6), P. 17
- 52) Report, II., pp. 591-2
- 53) Annals : P. 35 注3
- 54) Ibid : P. 36. 注1
- 55) Report, II., pp. 329-330
- 56) Ibid : pp. 592-4
- 57) Ibid : pp. 594-6

あとがき

「イギリスの学校教育——ハロー校チャールズ・ヴォーンスティーヴン・ヴォーンの改革」(発行所 帝国地方行政学会 価格1,200円)を昨年暮発行した。その内容は宮崎女子短大の研究紀要に発表した、イギリスの教育(6)と(7)、次に(8)として予定していた「教育課程の改革」をあわせて一本としたものである。この本のはしがきにイギリスの教育の特徴として、

- 1 父母はその子のために学校を選び、教師を選んでいる。
- 2 教師は入学してくる生徒のために最も適当な教育課程を用意し、その能力を最大限にのばす工夫をしている。
- 3 全学校が宗教教育を重視し、生徒個人の永生と、国民の強力な結束を願っている。
- 4 民間団体が中等学校修了資格試験(G.C.E)を実施し、その成績は大学入試、就職等に活用されている(G.C.Eは普通試験と高等試験があり、大学と中等学校長会が協議し、1857年から始めている)
- 5 奨学資金制度が充実し、公立小学校の卒業生が地方教育当局の学資を受けて、いわゆる公費奨学生として多数私立中等学校や大学に在学している(返済規定はない)

特に注目すべきことは、最上級である六年級生徒の「個人別教育課程」と、G.C.E(中等学校修了資格試験)である。校長が担当する六年級(私立学校の最高学年の通称)は、1860年代に早や平均2年滞在させていた。その後選択教科制を大幅に取り入れ、第一次大戦後の1920年代、アメリカでドルトン・プランが発表されると直ちにイギリスに輸入した。現在6年級に3年間滞在させ、生徒が選んだ3教科を1年間に1教科、生徒が選んだ「個人指導教師」の指導のもとで「個人別教育課程」を作成した上で「自学させ」、G.C.Eの高等試験通過を目標としている。

さて、カレッジの歴史と取りくんでみてその種類の多いのに驚いている。複雑である。最も初期のシュローズベリーのカレッジに、付属する信徒団の祭壇は独特の信仰形式である。この信徒団から同業組合へ、商人組合への発展は、遂に宗教改革運動につながって行くものだと考えている。宗教改革の意義は大きいのに、わが国ではそれほど重視されていない。アメリカの偉大な教育学者、哲学者ジョン、デューイ(1859-1952)は「哲学の改造」の中で(彼が大正8年東京大学で講演した筆記録、岩波文庫45頁)、プロテスタンティズムは、……個人の良心と礼拝とを解放した、と述べている。彼の考える真の意味をもっと深く考え、北ヨーロッパ人の精神活動の真の姿を明らかにすべきである。今からでもおそくはないと考えている。

次は学問を目的とするカレッジを取り扱うことにしたい。今机上にクイーンズ、カレッジの歴史、上下2巻、聖ジョンズ・カレッジの歴史、上下2巻、マールバラ・カレッジの歴史等がおかれている。前二者は後期カレッジ創立時代に属するカレッジである。クイーンズ・カレッジは46倍判で800頁ある。

最後のマールバラ・カレッジは最も新しいもの一つで、ラグビー校のトーマス・アーノルドの教育改革に刺戟され、1843年多数の有志が一定の金額を持ちよって創立した、新しい型のカレッジである。創立に要する最低資金は、終身委員(100ポンド支出して常に生徒一人を在学させる特権を得た者、通常委員(50ポンド支出して生徒一人を一定期間在学させる特権を得た者)の支出金による仕組みである。意欲的な学校の創立と経営振りは目をみはるものがある。ご期待をお願い致します。

次にイギリスの教育に関する、論文と著書の目録を記しておきます。残部がありますのでご希望の方は小生宛お申しこし下さい。ご鞭撻下さいますようお願いいたします。

イギリスの教育

発表誌

第1集	パブリック・スクール	イギリス教育の伝統と未来第2章	昭和42・7
第2集	エドワード・スリング		昭和43・4
第3集	無月謝学校の歴史	宮崎女子短大研究記要第2号 イギリス教育の伝統と未来第1章	昭和44・8

第4集	イートン・カレッジ	イギリス教育の伝統と未来第4章	昭和45・10
第5集	組合立学校の歴史	未刊	
第6集	ハロー・スクールの教育法 勅許状の研究	宮崎女子短大研究記要第3号 イギリスの学校教育第1章	昭和47・2
第7集	ハロー・スクールの教育 チャールズ・ヴォーンの改革	同 第4号 イギリスの学校教育第2章	昭和48・2
第8集	教育課程の改革	イギリスの学校教育第3章	昭和49・12
第9集	カレッジの歴史 シュロズベリーの聖メアリー・カレッジ	宮崎女子短大研究記要第5号	昭和50・3
第10集	カレッジの歴史 クイーンズ・カレッジ	予 定	未 定

著 書

- | | | | |
|----|-------------------------------------|------------------------------|---------|
| 1. | イギリス教育の伝統と未来
トーマス・アーノルドの教育観と経営実践 | 帝国地方行政学会発行
価2,000円 | 昭和46・2 |
| 2. | イギリスの学校教育
ハロー校チャールズ・ヴォーンの改革 | 行政発行 (旧名帝国地方行政学会)
価1,200円 | 昭和49・12 |

(昭和 50 年 3 月 20 日)

宮崎女子短期大学助教授

住 所 〒 880 宮崎市大和町129-2

電 話 0985-24-1826